



ライフラインを支える使命

決算説明会

令和3年5月期



前澤工業株式会社

証券コード：6489

I	企業概要	3
II	令和3年5月期 決算概況	11
III	中期経営計画	16
IV	令和4年5月期 業績予想	26
V	トピックス	35

I	企業概要	3
II	令和3年5月期 決算概況	11
III	中期経営計画	16
IV	令和4年5月期 業績予想	26
V	トピックス	35

創業	1937年(昭和12年)7月15日
設立	1947年(昭和22年)9月26日
資本金	52億3,371万円
発行済株式数	21,425,548株(単元株数100株)
代表者	代表取締役社長 松原 正
主な事業内容	上・下水道用機器・装置の製造・販売および施工
本社	埼玉県川口市仲町 5-11
本店	東京都中央区新川 1-5-17
連結子会社	(株)前澤エンジニアリングサービス
従業員	連結 1,002名 単体 711名

令和3年5月31日現在

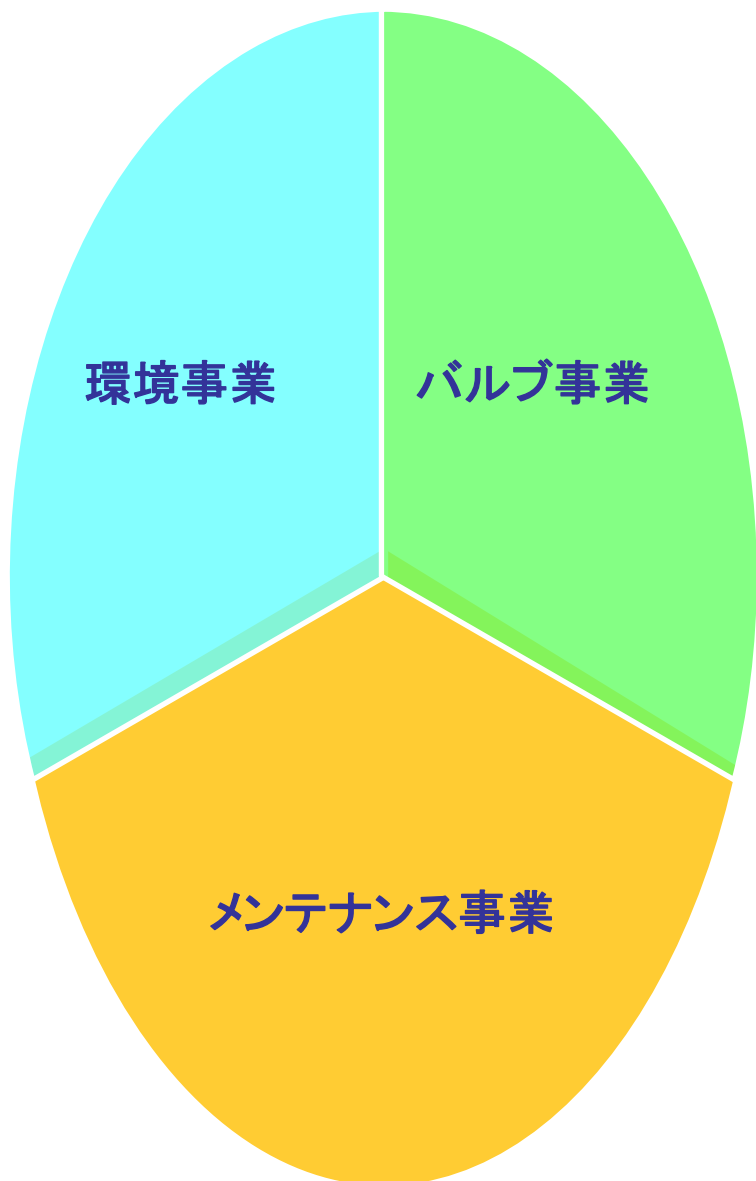
経営理念

水とともに躍進し 人間らしさをもとめ 社会に貢献できる魅力ある企業

当社事業

概要

主な製品・システム



環境事業

- ◆上水道・簡易水道
工業用水道施設
- ◆下水道・農業集落排水処理施設
- ◆バイオガスプラント
- ◆産業用水処理設備

浄水処理機械設備
高度浄水処理機械設備
膜処理浄水設備、MIEX®処理システム
沈砂池機械設備、水処理機械設備
汚泥処理機械設備
畜産系バイオガスシステム
食品残渣系バイオガスシステム
排水処理設備

バルブ事業

- ◆上下水道用各種弁類
- ◆消火栓類
- ◆門扉類
- ◆その他

仕切弁、ソフトシール弁、空気弁
ボール弁、汚泥引抜弁、バタフライ弁
流量制御弁、緊急遮断弁、逆止弁
地上式消火栓、地下式消火栓
制水扉、可動堰
ダクタイル鋳鉄製異形管

メンテナンス事業

- ◆バルブ・ゲート類
上下水機械類保守点検
維持修繕、改善、更新、O&M
- ◆飼料・肥料販売事業

緊急遮断弁点検、ゲート点検・修繕
除塵機点検、浄水処理機器整備、
下水処理機器整備、更新工事
集落排水処理施設機能強化
MSミネラソ



みず じゅん かん ささ せい ひん
水循環を支えるマエザワの製品マップ



環境事業関連



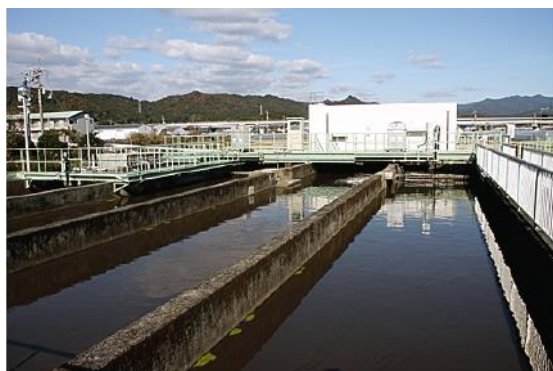
PTFE膜ろ過装置



MIEX処理システム



バイオガスプラント



OD法における二点DO制御システム



回転児雷也

バルブ事業関連



更新対応型ゲート



ユニット型ピンラック式除塵機

メンテナンス事業関連



ゲート不断水工法

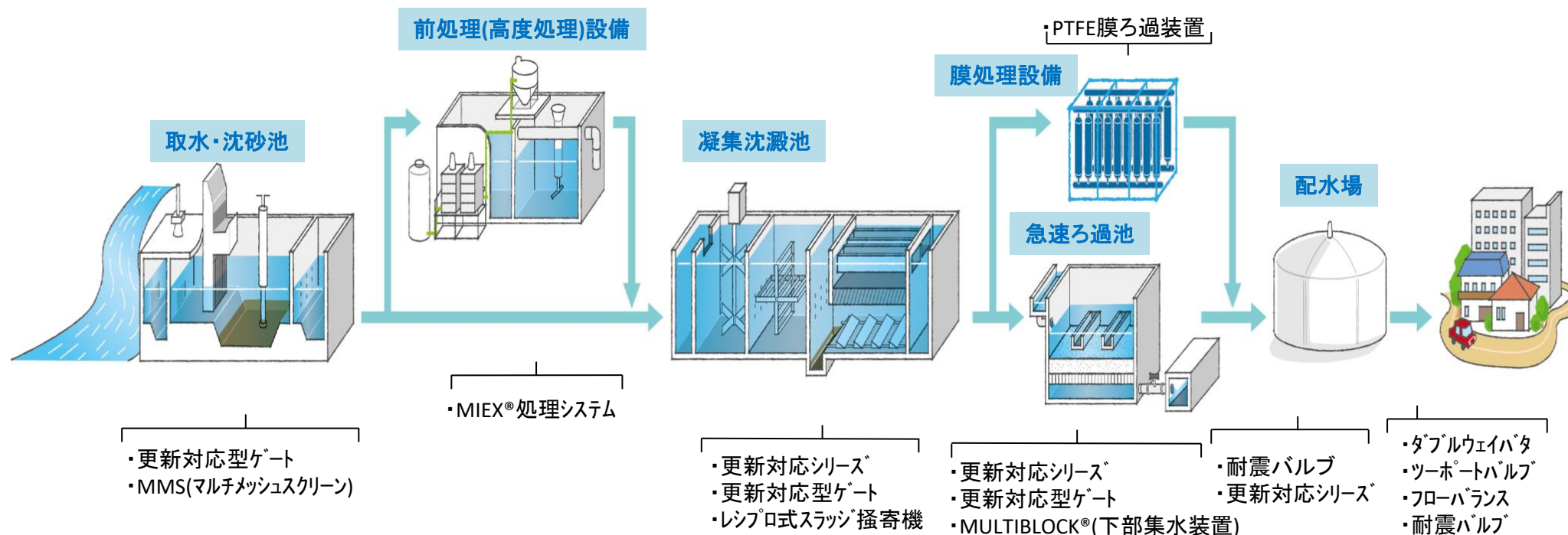


更新バタフライ弁

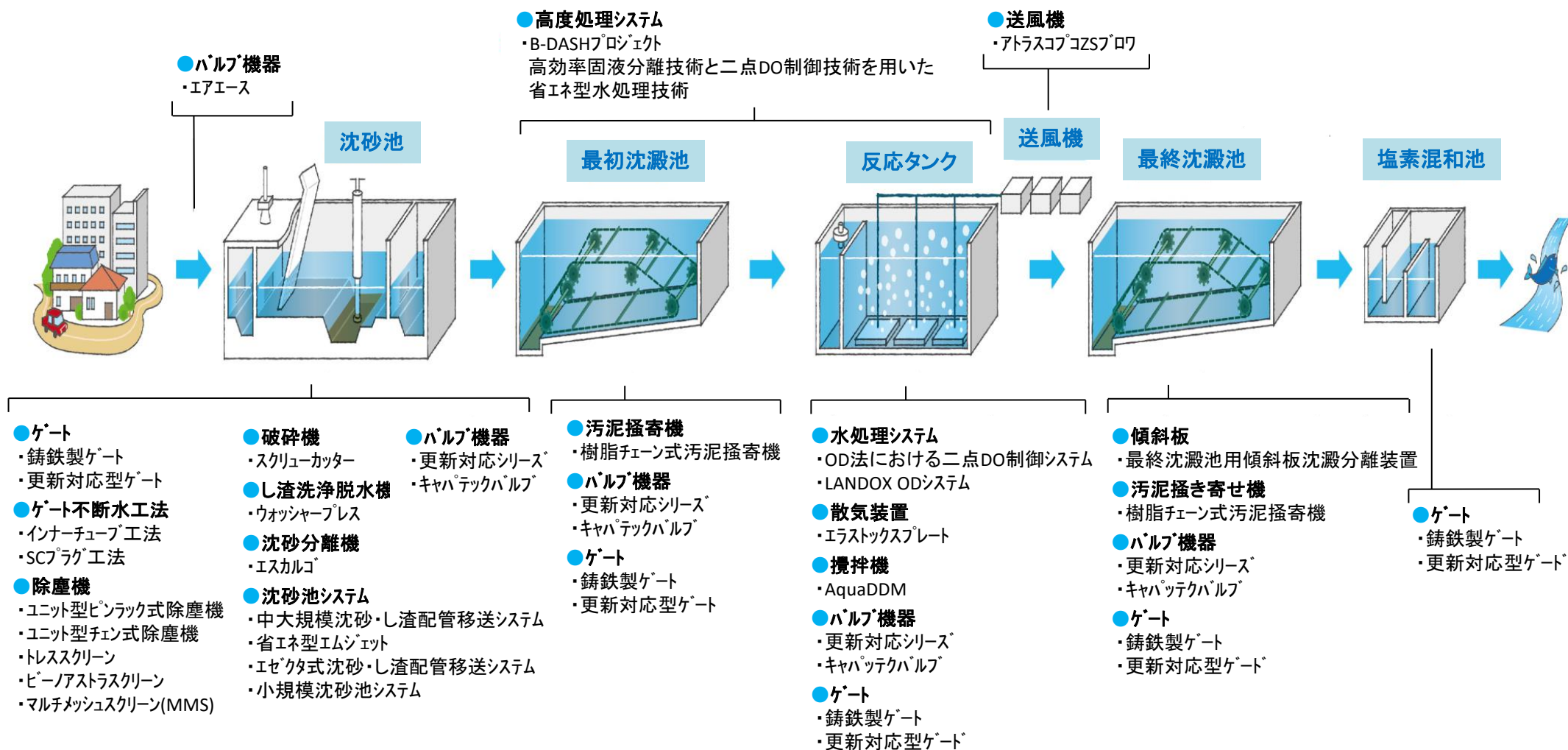


更新マディハイバルブ

上水処理の流れ



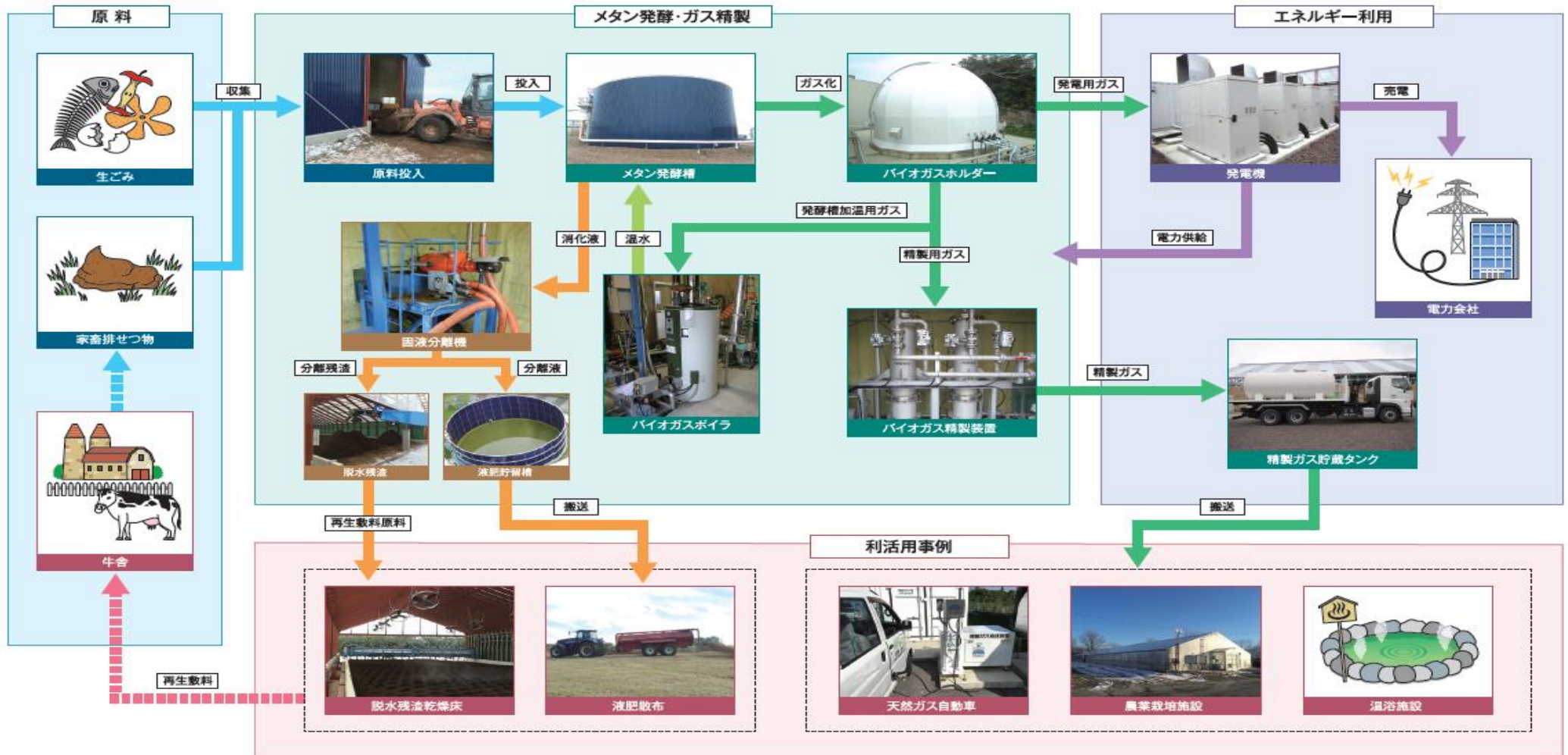
下水処理の流れ



マエザワ・バイオガスシステム

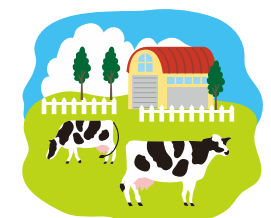
乳牛が排出するふん尿をバイオガス技術で処理することにより、

- 発生したバイオガスを電気や熱に変換して**再生可能エネルギー**として活用します。
- 悪臭を大幅に低減**して、液肥や牛の寝床として利用される再生敷料を生産します。



国内の生乳生産量の約半分を担う北海道では、86万頭の乳牛が飼養されており、年間約1,350万トンのふん尿が発生しています。

「家畜ふん尿の適正な処理」と「再生可能エネルギーの活用」ができるバイオガスプラントは、これまでに100基以上建設されていますが、今後さらなる整備が求められています。





I	企業概要	3
II	令和3年5月期 決算概況	11
III	中期経営計画	16
IV	令和4年5月期 業績予想	26
V	トピックス	35

(単位:百万円)

	R2. 5期 実績	R3. 5期 期初予想	R3. 5期 実績	前期比		期初予想比	
				金額	増減率	金額	増減率
受注高	34,900	30,000	33,443	△1,457	△4.2%	+3,443	11.5%
売上高	29,944	31,000	31,810	+1,865	6.2%	+810	2.6%
営業利益	1,778	1,700	3,221	+1,443	81.2%	+1,521	89.5%
経常利益	1,899	1,800	3,378	+1,478	77.8%	+1,578	87.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,075	1,100	2,489	+1,414	131.5%	+1,389	126.3%

業績ハイライト(前期比)

- 受注高は前年度好調だった為 14.5億円減少するも、環境事業、バルブ事業で大型案件を獲得し高水準を維持。
- 売上高は環境事業、メンテナンス事業の受注済み大型案件の進捗が進んだことや、好調であったバルブ事業の当期受注の大型案件も売上につながり 18.6億円増加。
- 営業利益は環境事業の黒字化、バルブ事業、メンテナンス事業ともに堅調に業績を伸ばしたことやコロナ禍に伴う営業活動抑制等の経費減少もあり、14.4億円増加。

(単位:百万円)

	R2. 5期 実績	R3. 5期 期初予想	R3. 5期 実績	前期比		期初予想比	
	金額	金額	金額	金額	増減率	金額	増減率
受注高	34,900	30,000	33,443	△1,457	△4.2%	+3,443	11.5%
環境事業	14,334	10,800	12,991	△1,342	△9.4%	+2,191	20.3%
バルブ事業	10,001	9,100	10,299	+298	3.0%	+1,199	13.2%
メンテナンス事業	10,565	10,100	10,151	△413	△3.9%	+51	0.5%
売上高	29,944	31,000	31,810	+1,865	6.2%	+810	2.6%
環境事業	10,975	11,500	11,257	+281	2.6%	△242	△2.1%
バルブ事業	9,391	9,200	10,280	+888	9.5%	+1,080	11.7%
メンテナンス事業	9,577	10,300	10,273	+695	7.3%	△26	△0.3%
セグメント利益	1,667	1,700	3,106	+1,439	86.3%	+1,406	82.8%
環境事業	△611	60	465	+1,076	-	+405	676.1%
バルブ事業	742	280	961	+218	29.5%	+681	243.4%
メンテナンス事業	1,535	1,360	1,679	+144	9.4%	+319	23.5%

業績ハイライト(前期比)

環境事業

受注高は前年度好調だった為 13.4億円減少も大型案件を獲得し高水準を維持。売上高は受注済み大型案件が進捗し 2.8億円増加。セグメント利益は好採算案件の売上や営業活動抑制等の経費減少もあり 10.7億円増加。

バルブ事業

受注高は大型案件獲得もあり、2.9億円増加。売上高は受注の増加により 8.8億円増加。セグメント利益は売上増加や営業活動抑制等の経費減少もあり 2.1億円増加。

メンテナンス事業

受注高は前期大型案件獲得の反動もあり 4.1億円減少。売上高は受注済み大型案件の進捗もあり 6.9億円増加。セグメント利益は売上増加や営業活動抑制等の経費減少もあり 1.4億円増加。

(単位:百万円)

	R2. 5期末		R3. 5期末		前期末比		主な増減要因
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
資産合計	33,370	100.0%	35,767	100.0%	+2,397	7.2%	
流動資産	23,382	70.1%	25,442	71.1%	+2,060	8.8%	現預金:2,242 棚卸資産:△60
有形固定資産	7,023	21.0%	7,020	19.6%	△2	△0.0%	設備投資:563 減価償却費:△517
無形固定資産	47	0.1%	49	0.1%	+2	5.5%	投資:23 減価償却費:△23
投資その他の資産	2,916	8.7%	3,254	9.1%	+337	11.6%	投資有価証券:327
負債合計	14,795	44.3%	14,971	41.9%	+176	1.2%	
流動負債	11,530	34.6%	12,289	34.4%	+759	6.6%	仕入債務:△639 借入金:573 前受金:448
固定負債	3,265	9.8%	2,681	7.5%	△583	△17.9%	長期借入金:△366 退職給付に係る負債:△180
純資産合計	18,574	55.7%	20,795	58.1%	+2,221	12.0%	

(単位:百万円)

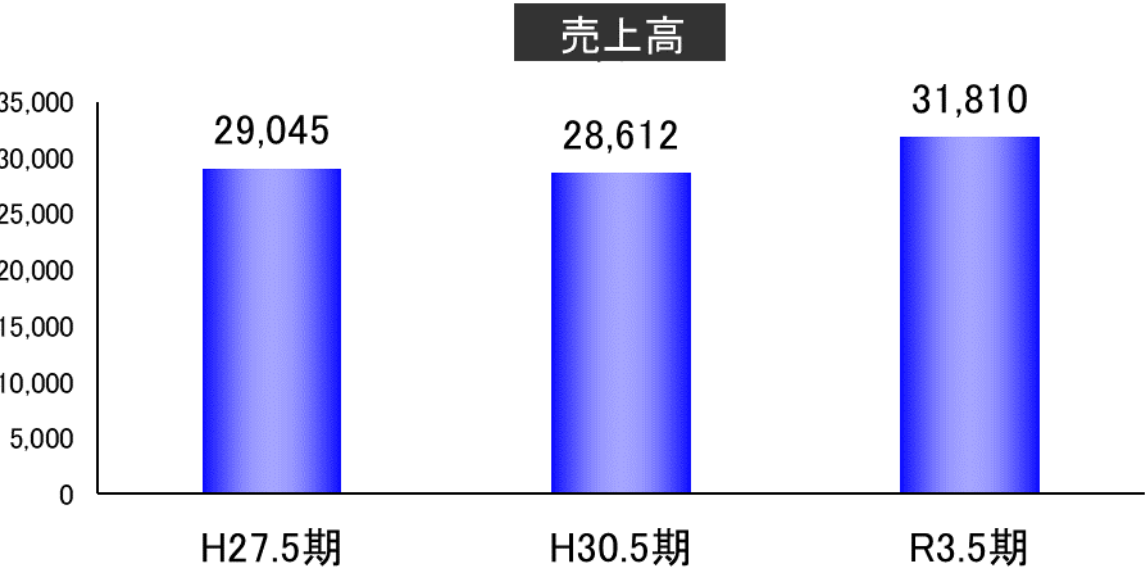
	R3. 5期	主な要因等
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,400	税金等調整前当期純利益:3,339 減価償却費:541 仕入債務の減少:△537 前受金の増加:448 法人税等支払額:△955
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 587	有形固定資産取得:△566
フリー・キャッシュ・フロー	2,812	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 570	長期借入の増加:207 社債の減少:△244 自己株式の増加:△199 配当金支払:△303
現金及び現金同等物の期末残高	9,591	



I	企業概要	3
II	令和3年5月期 決算概況	11
III	中期経営計画	16
IV	令和4年5月期 業績予想	26
V	トピックス	35

前中期経営計画 (平成30年度～令和2年度)

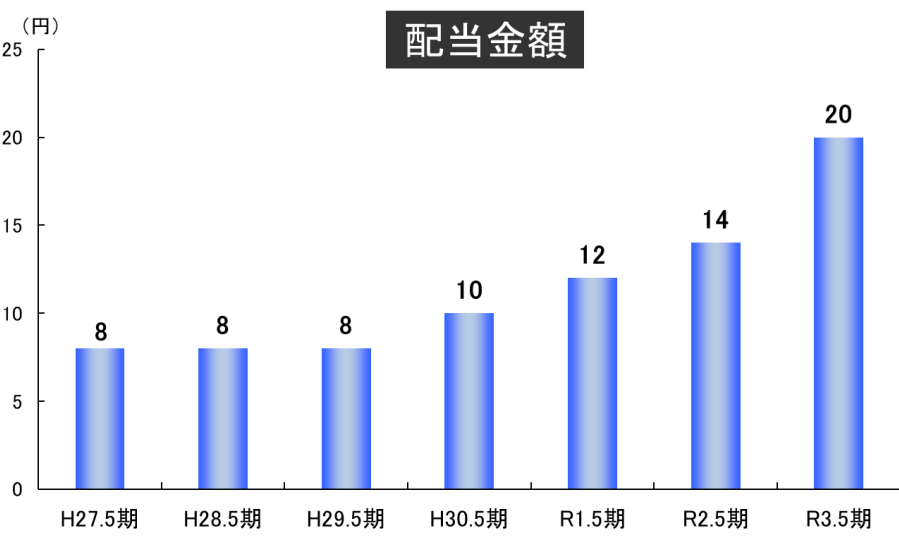
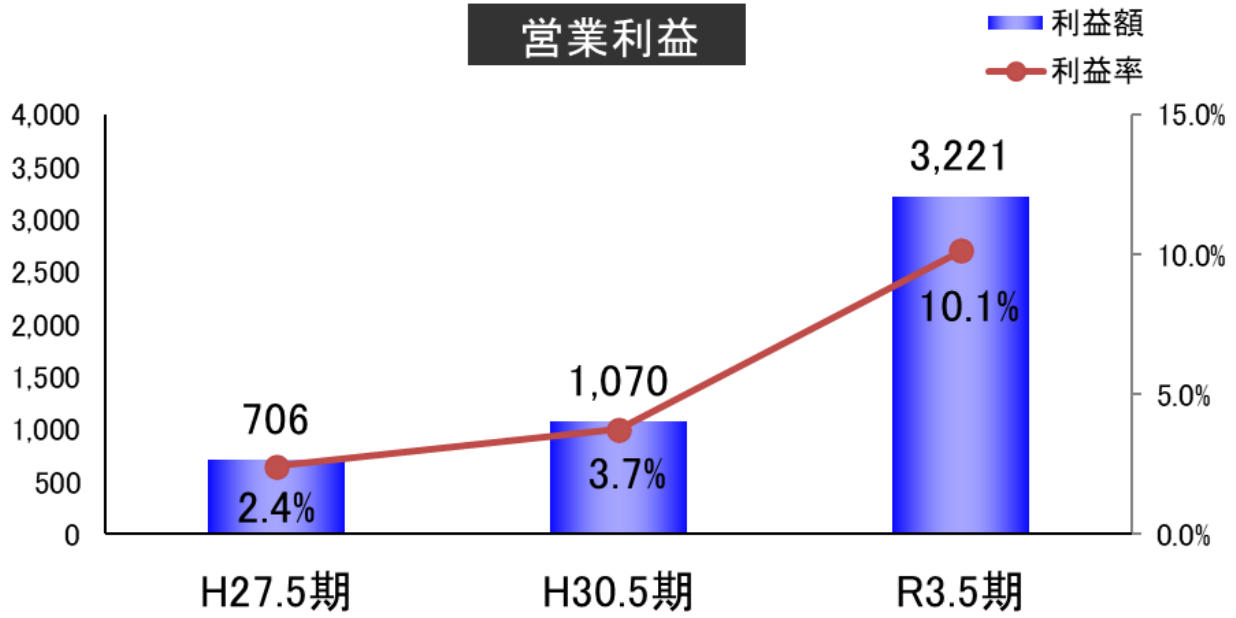
(単位:百万円)



前中期経営計画

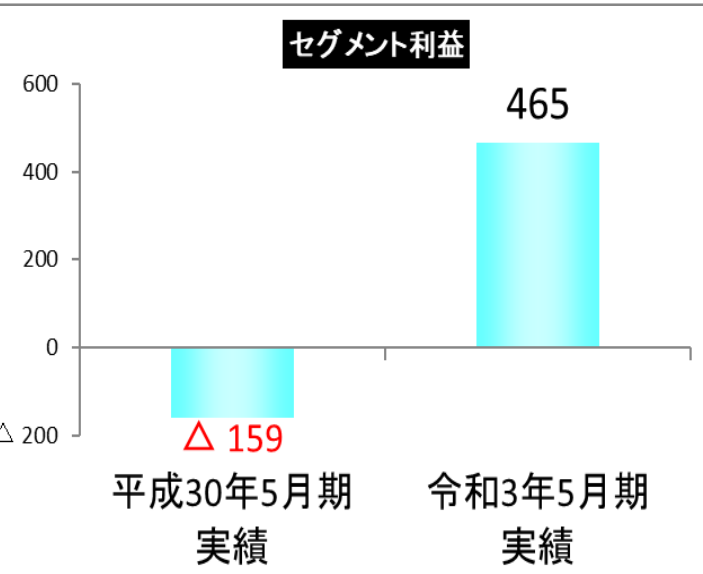
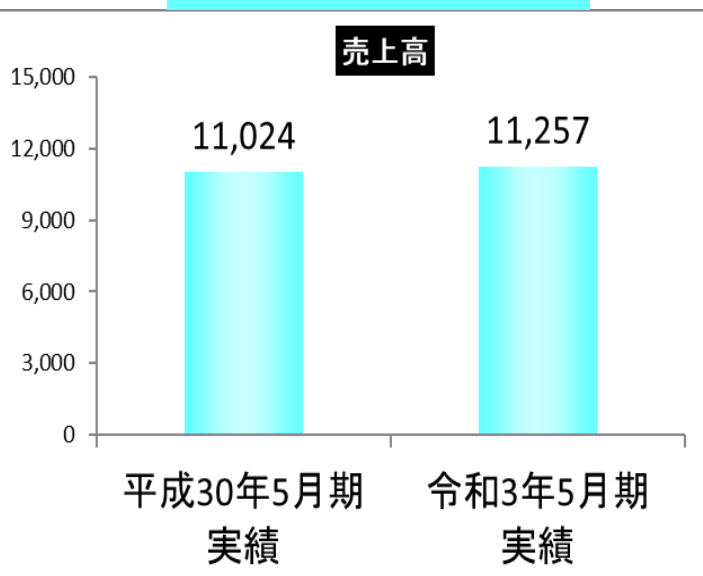
令和3年5月期

	目標	実績	達成率
売上高	31,000	31,810	102.6%
営業利益	1,600	3,221	201.3%
営業利益率	5.2%	10.1%	196.2%



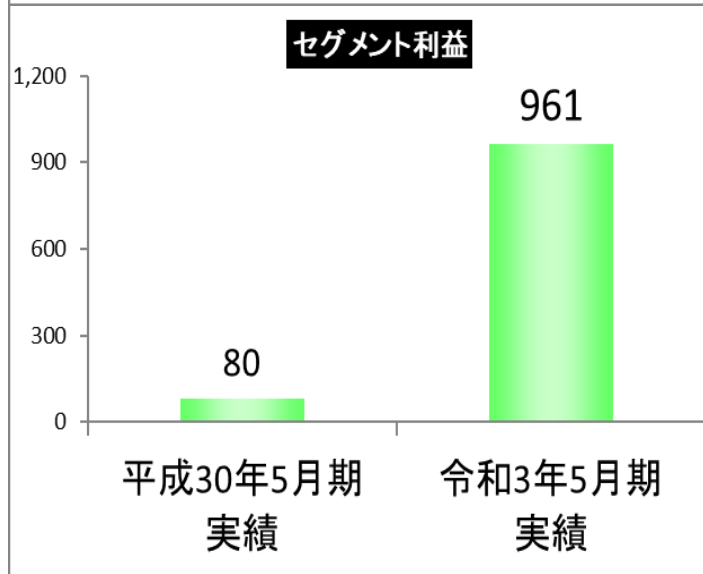
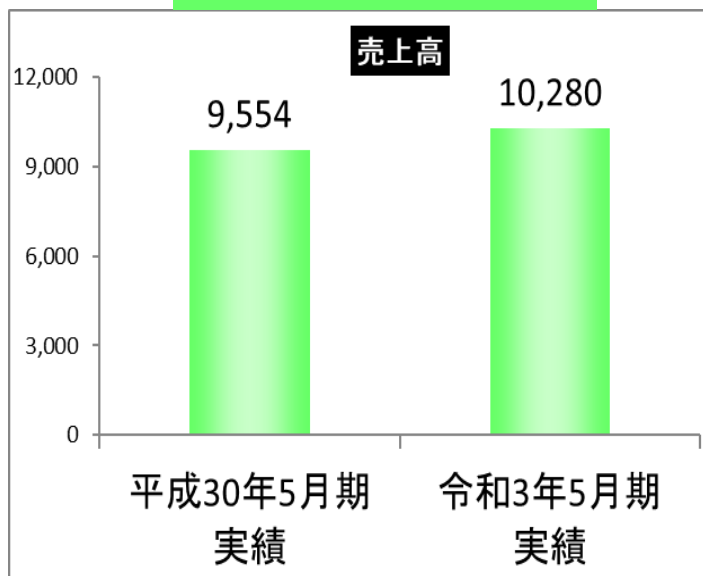
(単位:百万円)

環境事業



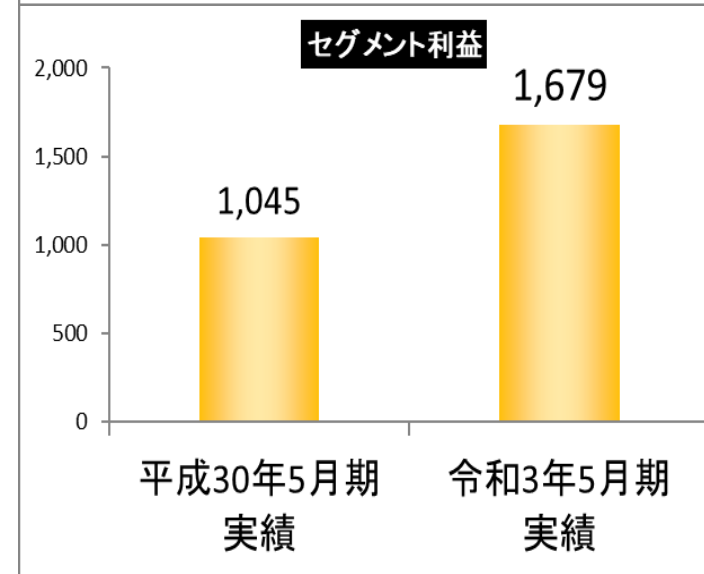
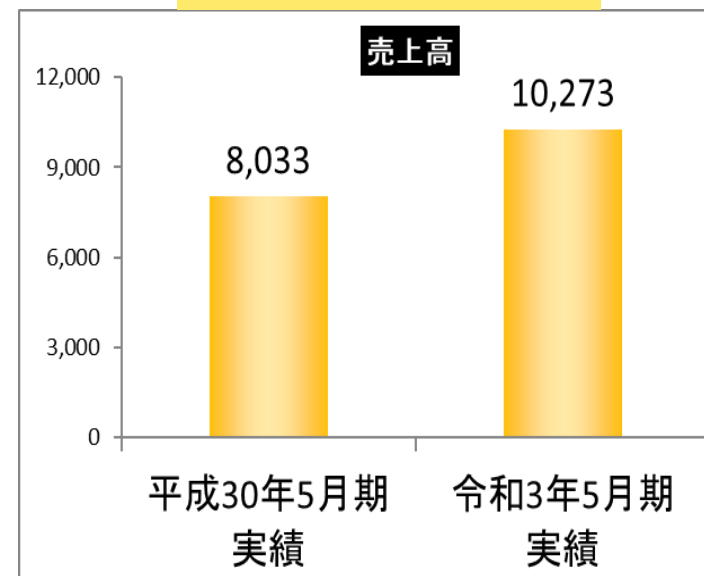
環境事業			
令和3年5月期	目標	実績	達成率
売上高	12,800	11,257	87.9%
セグメント利益	200	465	232.8%

バルブ事業



バルブ事業			
令和3年5月期	目標	実績	達成率
売上高	9,700	10,280	106.0%
セグメント利益	200	961	480.8%

メンテナンス事業



メンテナンス事業			
令和3年5月期	目標	実績	達成率
売上高	8,500	10,273	120.9%
セグメント利益	1,200	1,679	140.0%

重点施策	成果	課題
1.成長事業の確立		
(1) バイオガスプラント技術を核にした 農業分野等におけるバイオマス事業 (2) 膜ろ過技術、水流制御技術を核にした 水関連ビジネスのグローバル展開 (3) IoT、AIを活用した 技術・製品・ビジネスモデルの開発	バイオガスプラントの実績積み上げ ベトナム国下水処理場のODA案件にて大 口沈砂池機械を受注 AIを活用した水処理技術の基礎的研究と 実証フィールドへの移行	バイオガス案件の安定的な受注 新型コロナウイルスの影響による 海外実証事業の遅れ IoT、AIのビジネス適用に向けた実用的 なデータ集積
2.既存事業の改革		
(1) 顧客ニーズを捉えた提案と事業参画 (2) 生産性向上による 受注拡大、原価低減、損失削減	特長ある製品を中心に販売強化 リードタイム短縮取り組みによる生産効率 向上 施設の老朽化対策を背景としたメンテナ ンス事業の成長	バルブ事業、環境事業の更新提案力 の充実 工場生産設備の更新、CO2排出削減 に向けた取り組み メンテナンス技術を活かした更なる事 業拡大
3.経営基盤の強化		
(1) 働き方改革の推進 (2) リスクマネジメントの充実	65歳定年制導入 多様な働き方実践企業「プラチナ認定」取 得 テレワーク環境整備によるコロナ禍での業 務対応	将来を見据えた人材育成の充実 感染症対策含めた更なるリスクマネジ メントの充実

中期経営計画 (令和3年度～令和5年度)

スローガン

「 新たな成長への飛躍 」

基本方針

将来にわたり持続的な成長を遂げ、社会に貢献し続けられる企業グループをめざし、礎となる経営基盤を強化するとともに、変化する事業環境への対応と効率化による収益力の向上を推進していきます。

1. 事業領域の拡充

(1) 再エネ・省エネ技術の拡充と展開

バイオガスプラント技術を核とした再生可能エネルギー事業への参画および上下水道事業における省エネ性能に優れた技術の開発、普及に取り組んでいく。

(2) 官民連携事業の推進

デザインビルドや包括委託などの官民連携事業に積極的に取り組んでいく。

(3) ASEAN地域における水インフラビジネスの基盤づくり

ASEAN地域を中心に特長あるバルブ製品や水処理技術の海外展開を図っていく。

2. 収益基盤の強化

(1) 顧客ニーズを捉えた技術開発と更新提案

顧客ニーズや課題に応える技術開発および当社の優位性ある製品、特長ある水処理システムを活かした更新提案を強化していく。

(2) 生産の効率化と現場力の強化

製造、プラント施工、サービスにおける生産体制、工程管理および品質管理の強化に取り組んでいく。

(3) メンテナンス事業の拡大

バルブ・ゲートおよびプラント機器のメンテナンス技術を活かした付加価値の高いサービスを展開していく。

3. 持続的成長を支える経営基盤の強化

(1) 人材育成と働きがいのある職場づくり

企業の持続的な成長を担う人材を確保・育成するとともに、女性社員活躍推進に継続的に取り組むなど働きがいのある職場を作っていく。

(2) 生産性と付加価値向上に向けたDXの推進

DX(デジタル・トランスフォーメーション)による企業価値向上を目指し、生産性向上および新たな価値創造の手段としての可能性を探っていく。

(3) 環境負荷低減に貢献する事業活動の推進

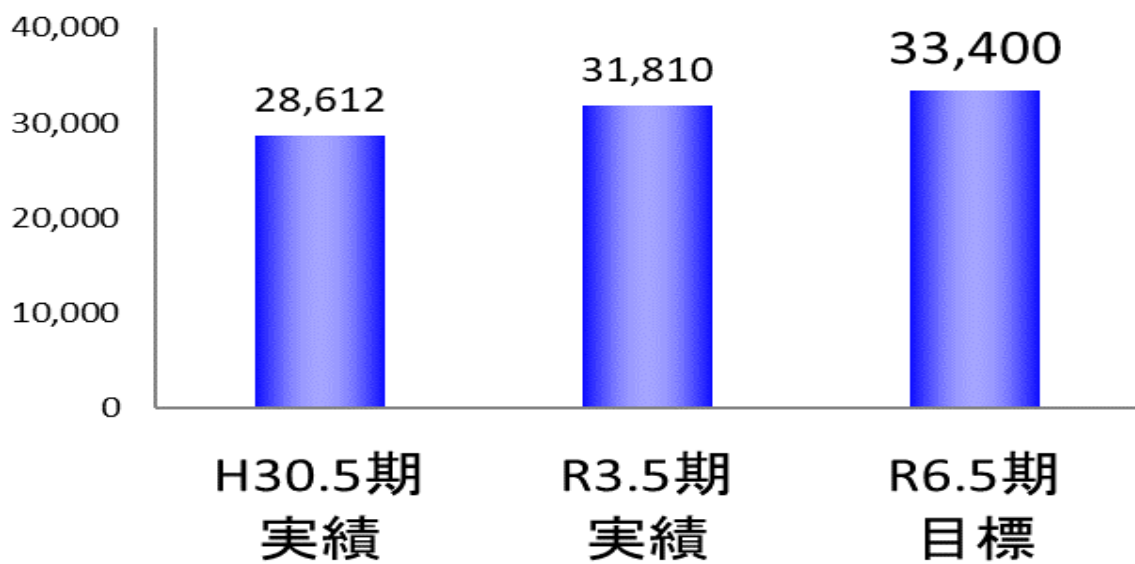
低炭素・循環型社会の実現に向けて、SDGsへの取り組みをはじめ事業活動における環境負荷低減に努めていく。

(4) ガバナンス機能の充実

企業の健全な経営と持続的な成長に向けて、コンプライアンスの推進、安全管理を含めたリスクマネジメント、企業情報発信ならびに本社機能の充実を図っていく。

令和6年5月期 業績目標

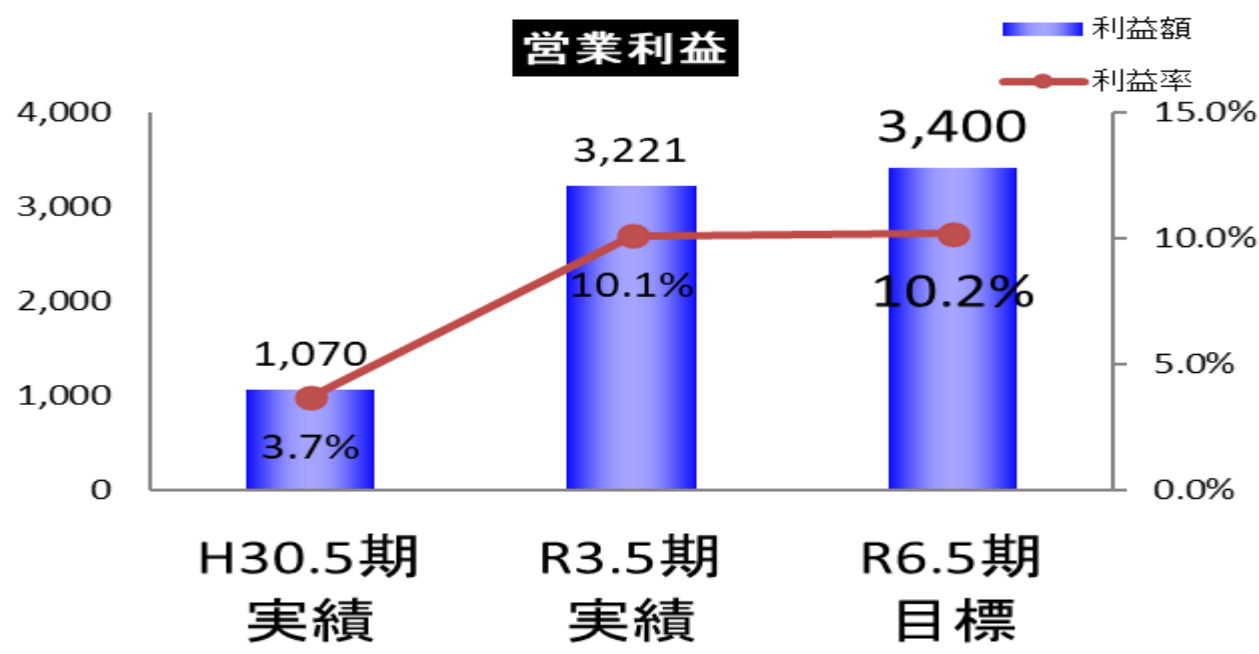
売上高



(単位:百万円)

	中期経営計画 R6.5期目標値
売上高	33,400
営業利益	3,400
営業利益率	10.2%

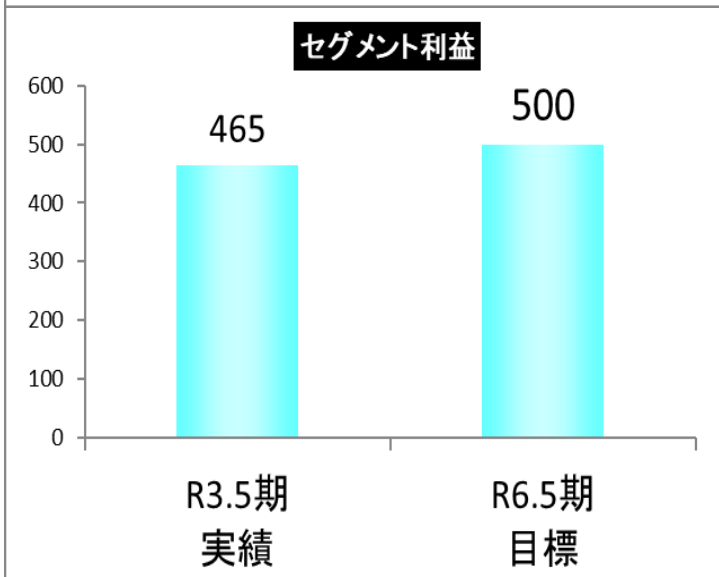
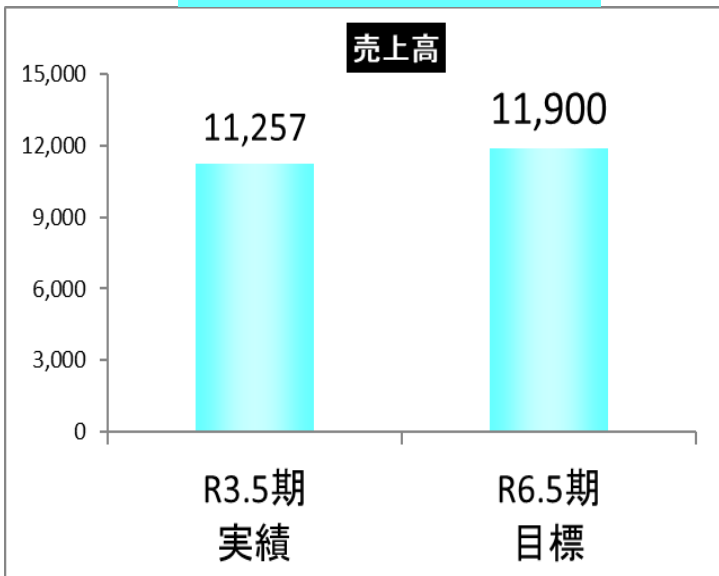
営業利益



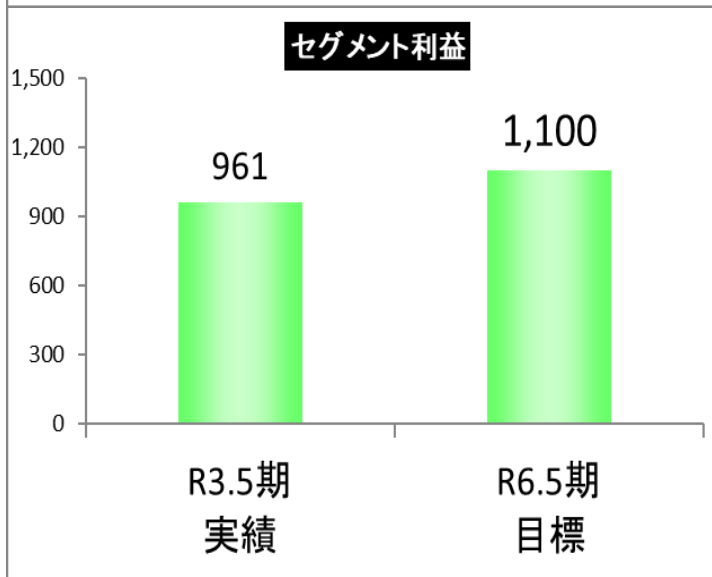
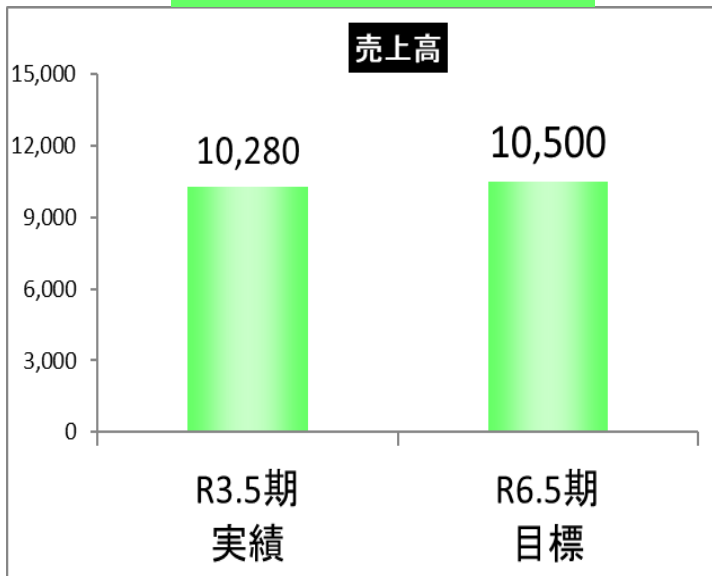
業績目標 セグメント別

(単位:百万円)

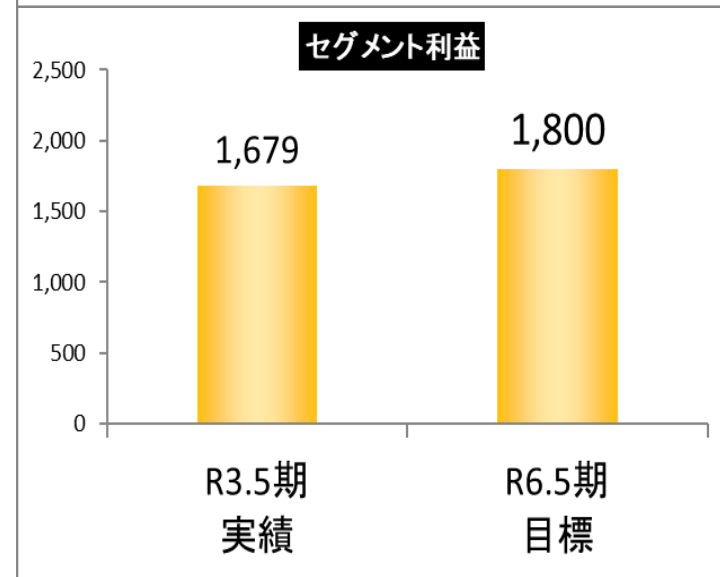
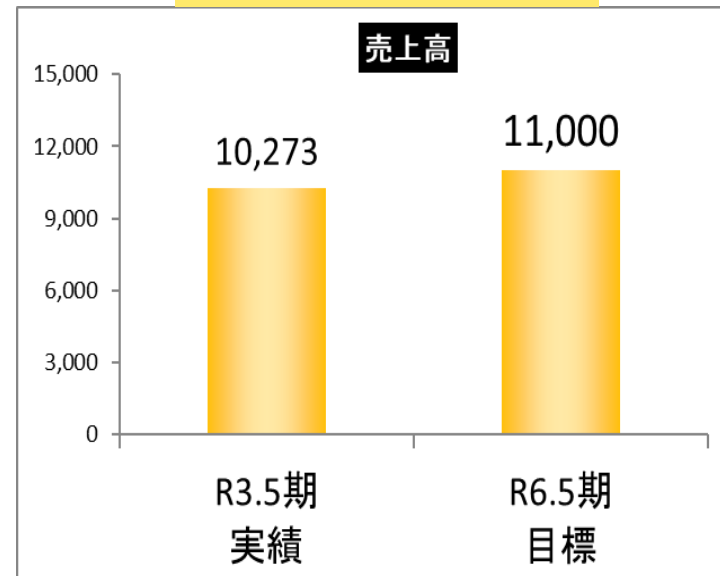
環境事業



バルブ事業



メンテナンス事業



I	企業概要	3
II	令和3年5月期 決算概況	11
III	中期経営計画	16
IV	令和4年5月期 業績予想	26
V	トピックス	35

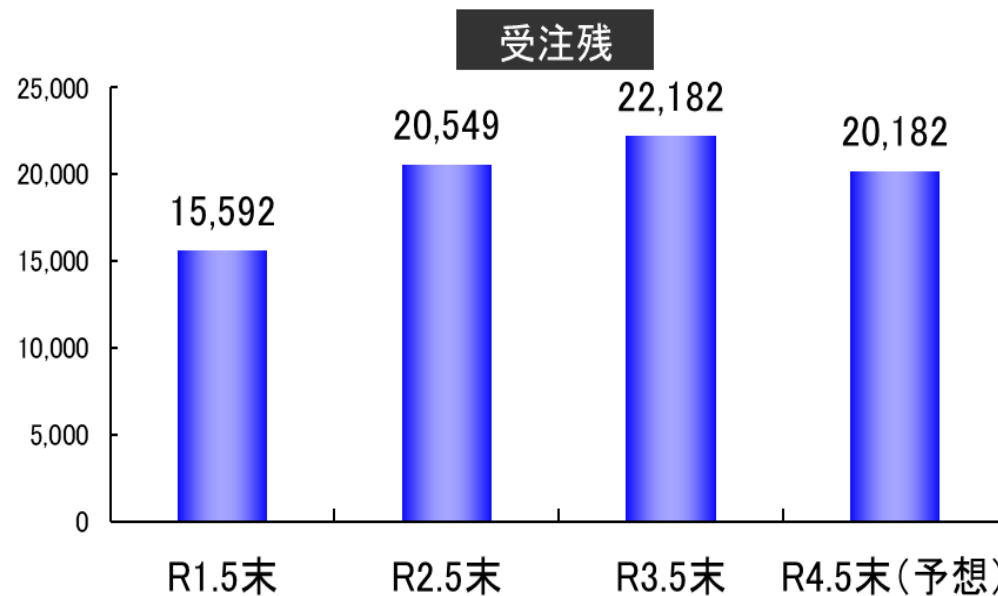
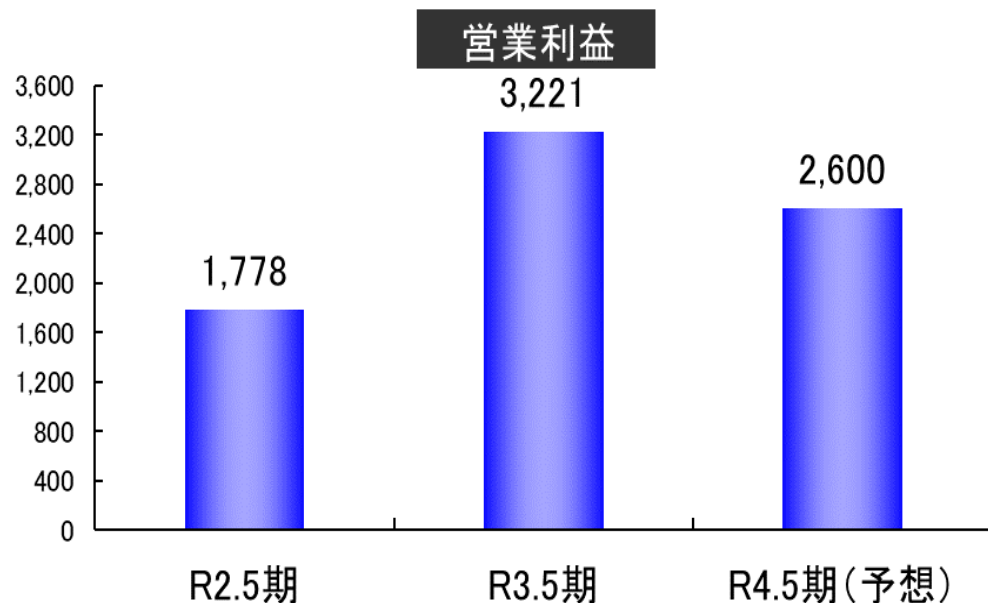
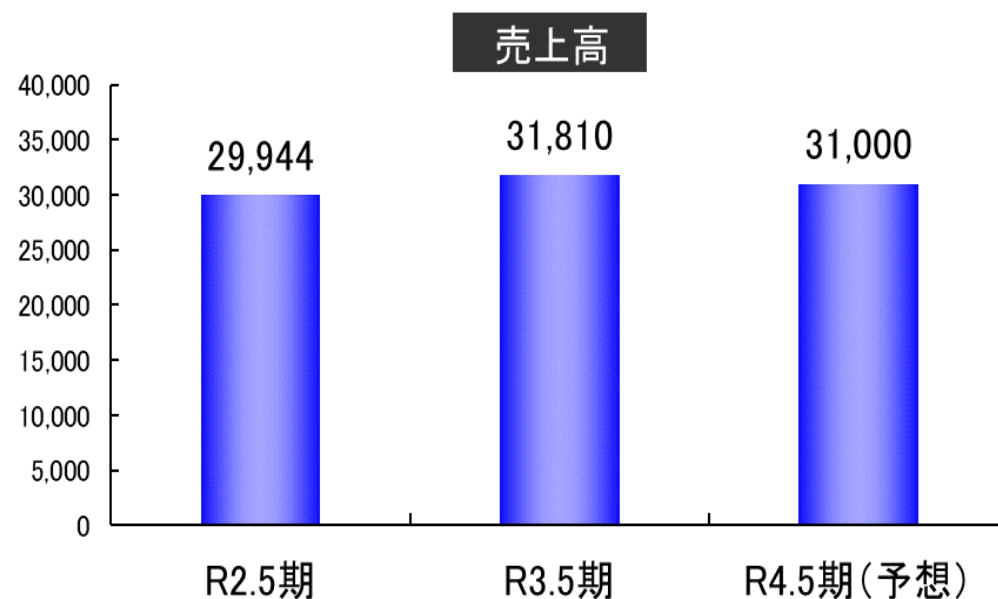
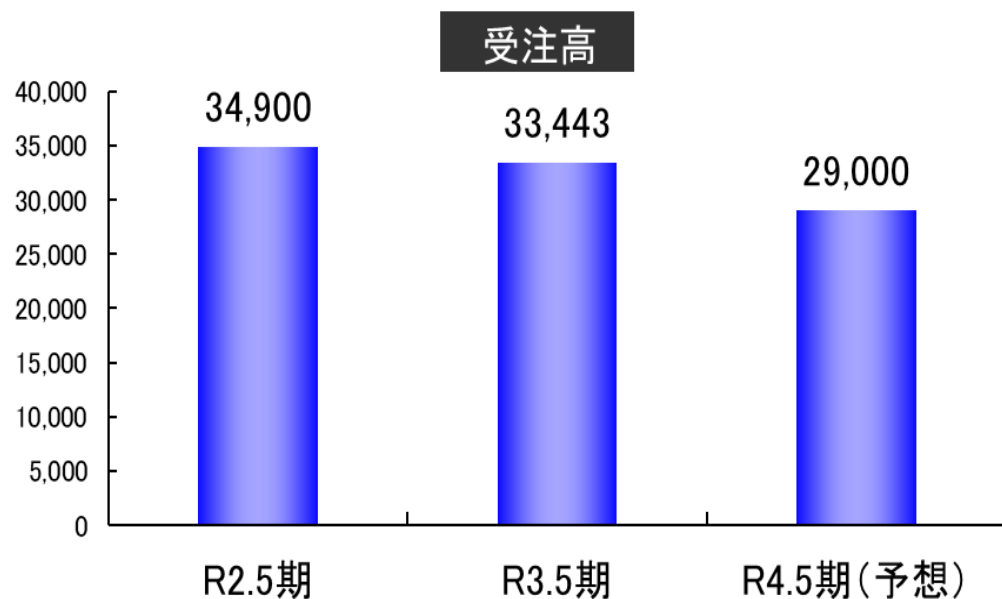
(単位:百万円)

	R3. 5期 実績	R4. 5期 予想	前期比
受注高	33,443	29,000	△4,443
売上高	31,810	31,000	△810
営業利益	3,221	2,600	△621
経常利益	3,378	2,700	△678
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,489	1,800	△689

今期見通し

- 受注高は前期の大型案件受注の反動もあり、全体で44.4億円減少。
- 売上高は環境事業の前期受注大型案件の今期進捗が見込めず6.5億円減少し、全体で8.1億円減少。
- 営業利益はメンテナンス事業は堅調に推移するも、バルブ事業、環境事業では売上高の減少や前年度のコロナに伴う営業活動抑制等の反動並びに老朽設備改修費、木材価格高騰による梱包材等の経費増加により全体で6.2億円減少。

(単位:百万円)



(単位:百万円)

	R3. 5期 実績		R4. 5期 予想		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
受注高	33,443	100.0%	29,000	100.0%	△4,443	△13.3%
環境事業	12,991	38.8%	8,600	29.7%	△4,391	△33.8%
バルブ事業	10,299	30.8%	10,100	34.8%	△199	△1.9%
メンテナンス事業	10,151	30.4%	10,300	35.5%	+148	1.5%
売上高	31,810	100.0%	31,000	100.0%	△810	△2.5%
環境事業	11,257	35.4%	10,600	34.2%	△657	△5.8%
バルブ事業	10,280	32.3%	10,000	32.3%	△280	△2.7%
メンテナンス事業	10,273	32.3%	10,400	33.5%	+126	1.2%
セグメント利益	3,106	-	2,510	-	△596	△19.2%
環境事業	465	-	20	-	△445	△95.7%
バルブ事業	961	-	740	-	△221	△23.0%
メンテナンス事業	1,679	-	1,750	-	+70	4.2%

今期見通し

環境事業

受注高は前期の大型案件獲得の反動を受け 43.9億円減少。売上高は前期受注大型案件の今期進捗が見込めず 6.5億円減少。セグメント利益は売上減少や経費増加により 4.4億円減少。

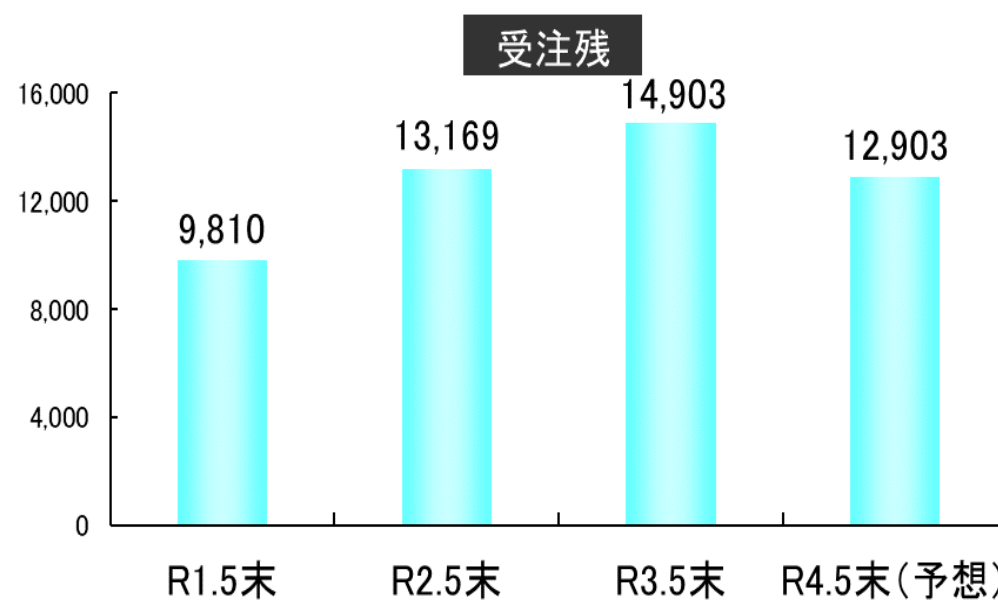
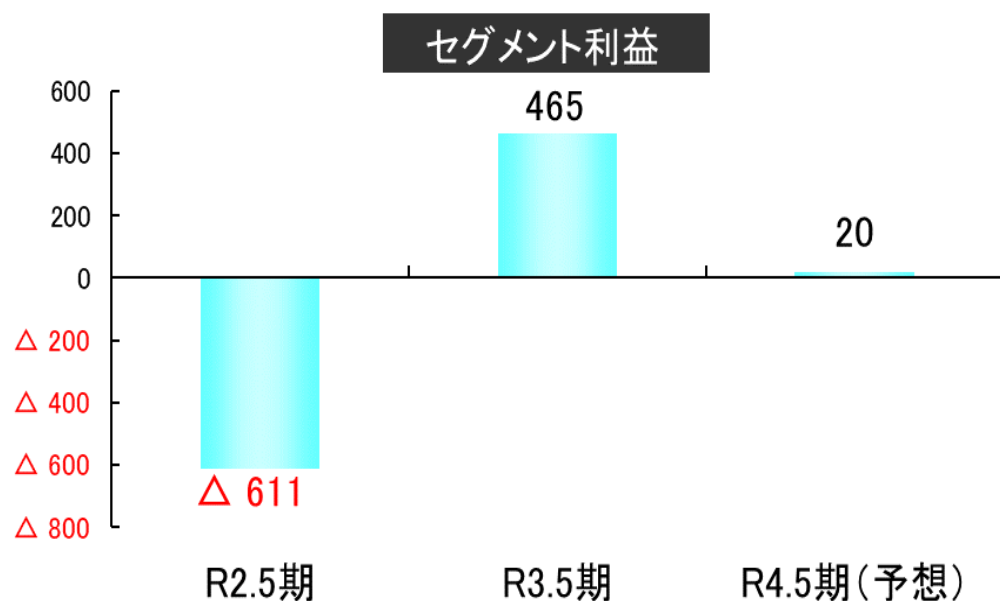
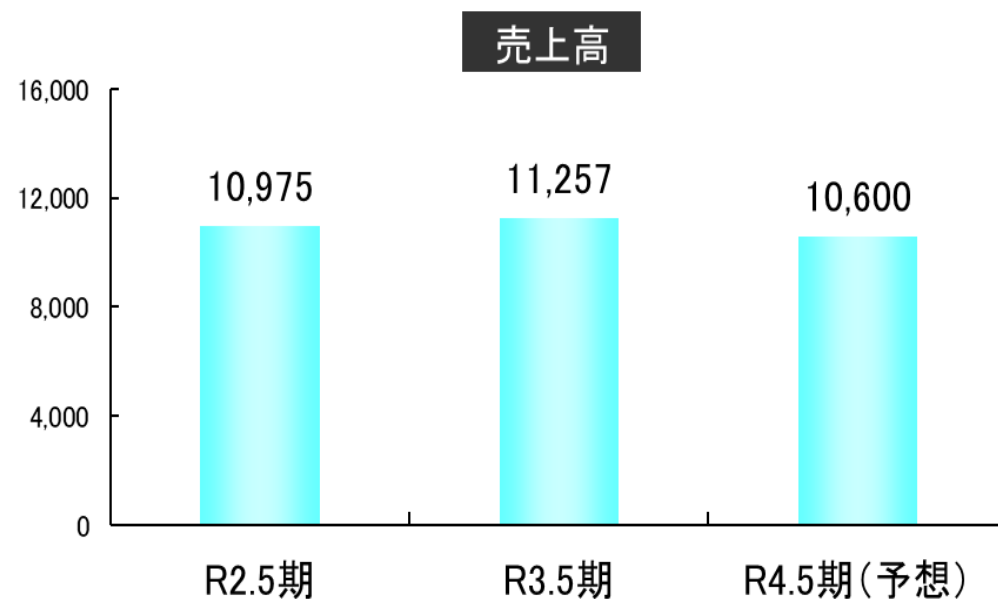
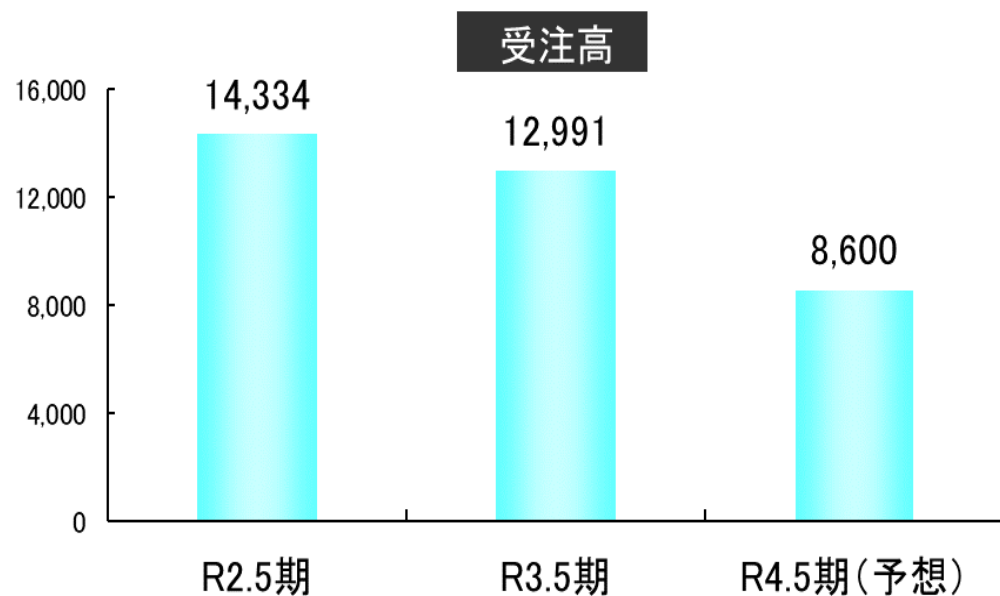
バルブ事業

受注高は前期の大型案件獲得の反動を受け 1.9億円減少。売上高は受注高の減少により 2.8億円減少。セグメント利益は売上減少や老朽設備改修費、木材価格高騰による梱包材等の経費増加により 2.2億円減少。

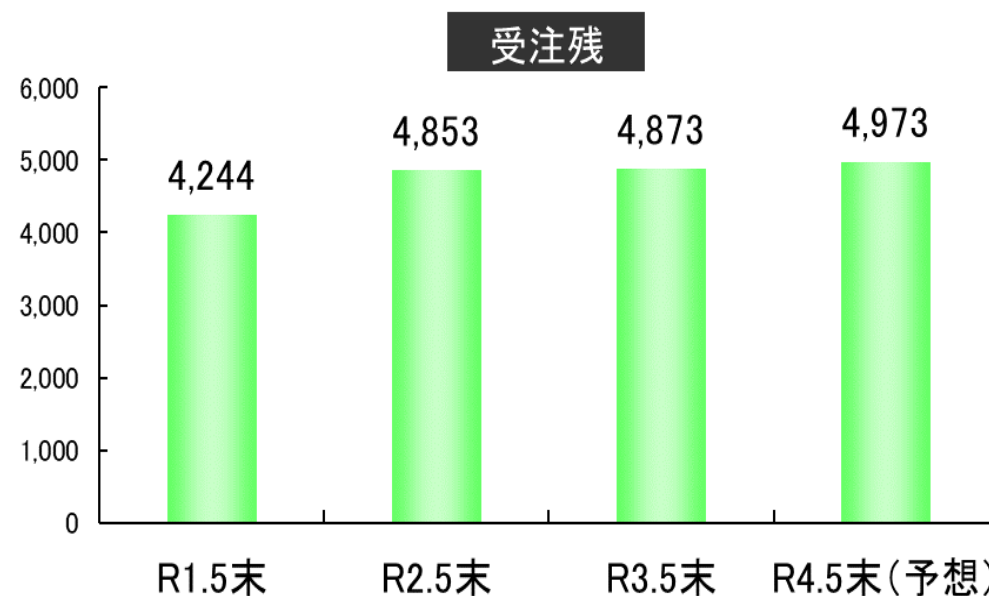
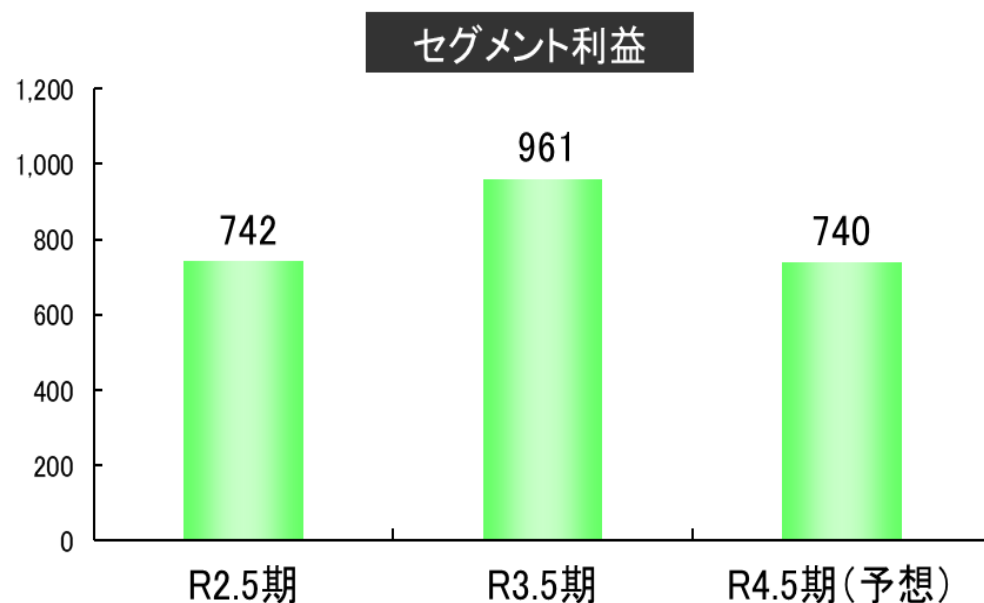
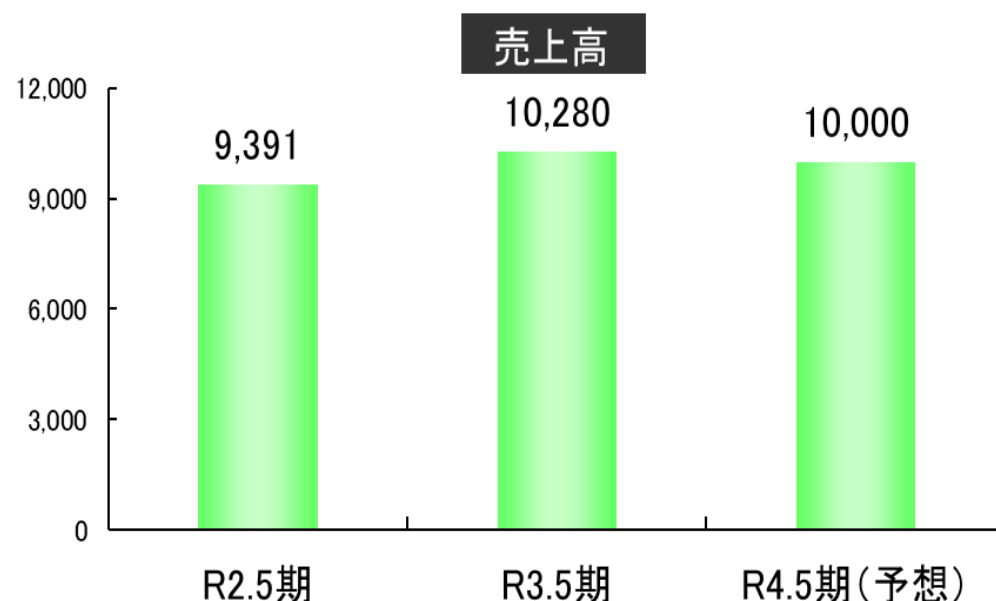
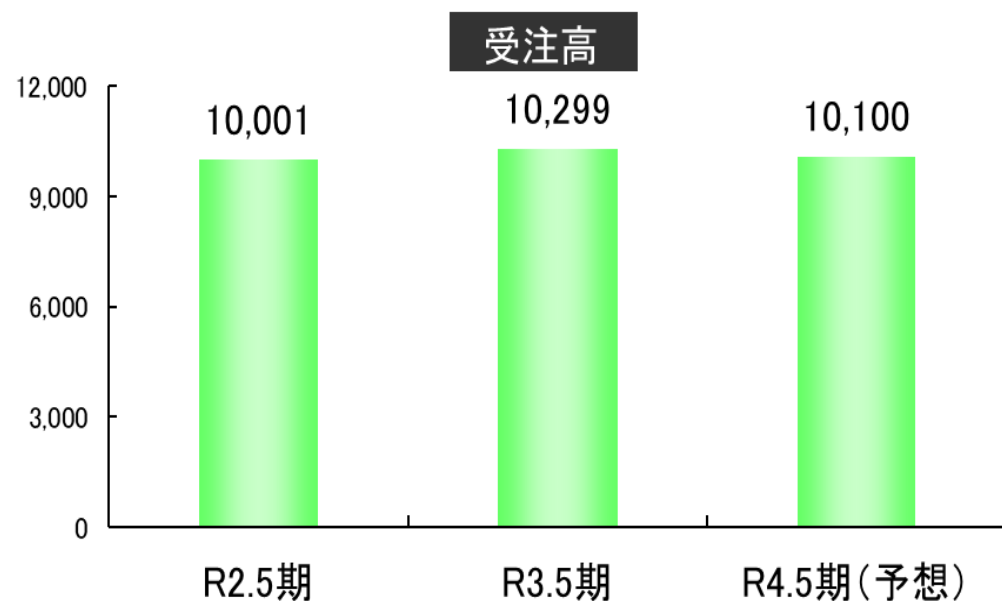
メンテナンス事業

業績は堅調に推移し、受注高は 1.4億円増加。売上高は 1.2億円増加。セグメント利益は経費増加も売上増加等により 0.7億円増加。

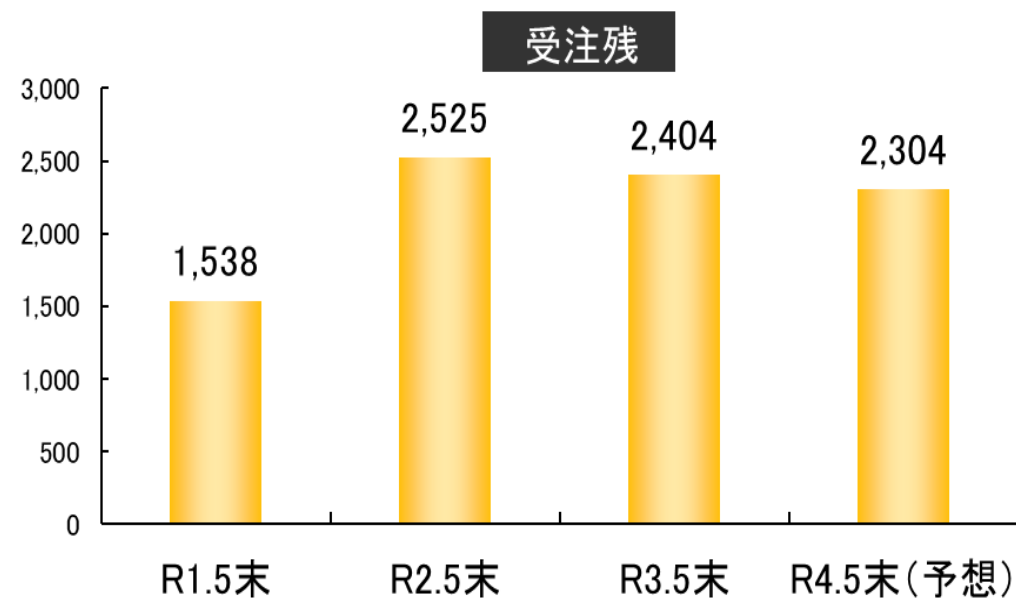
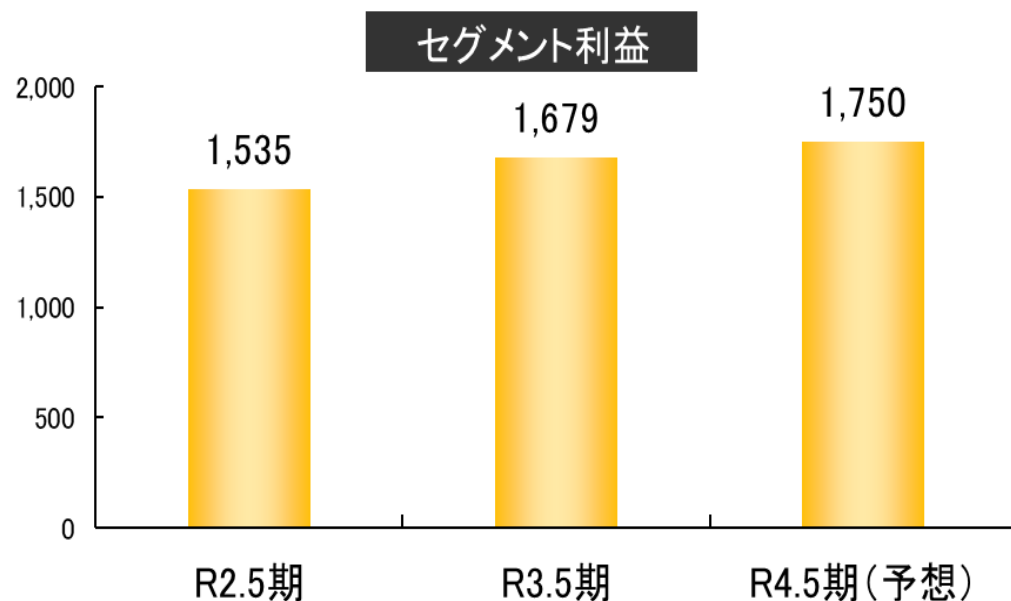
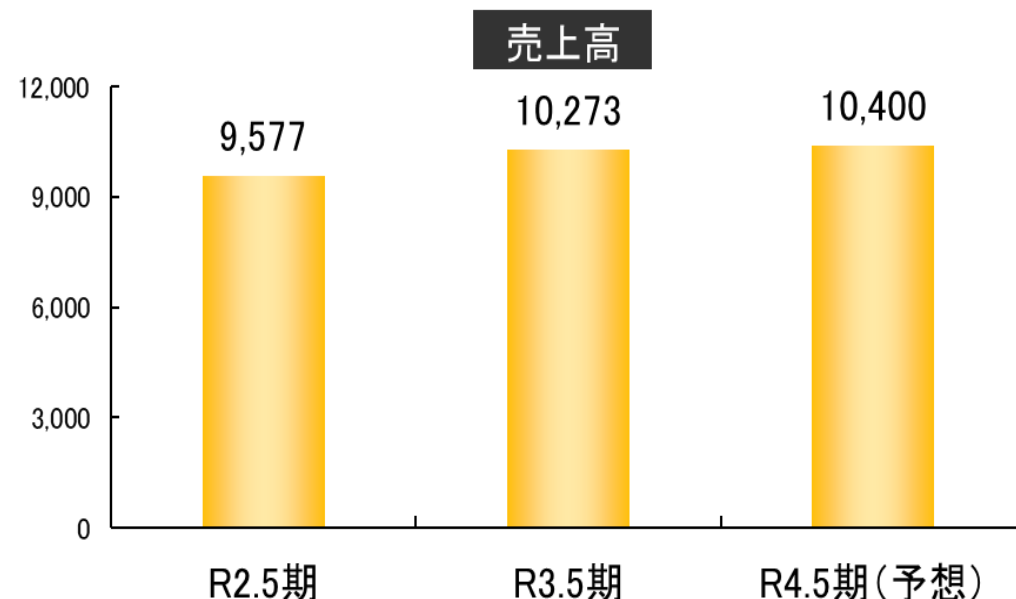
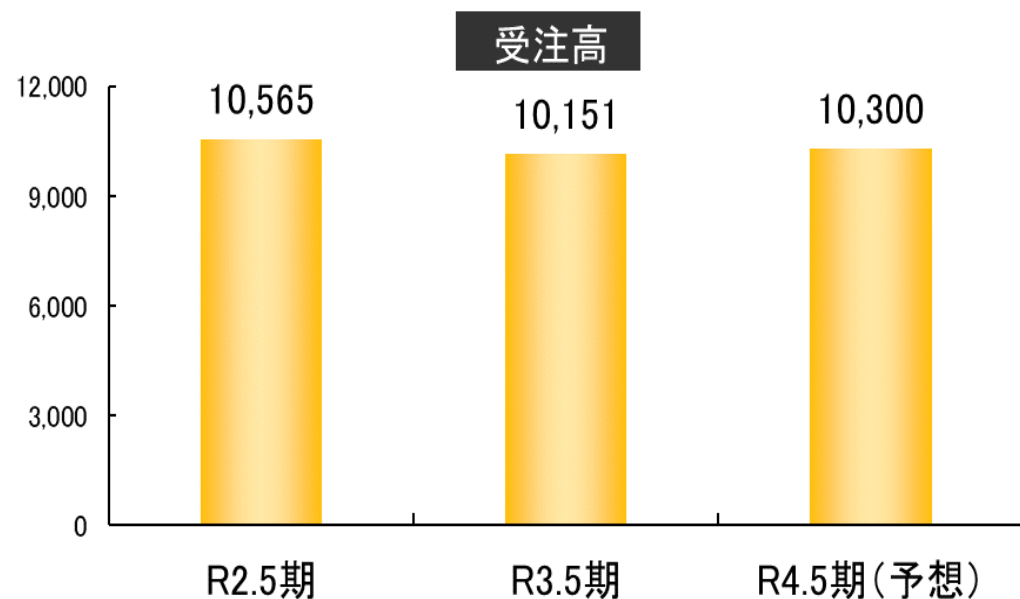
(単位:百万円)

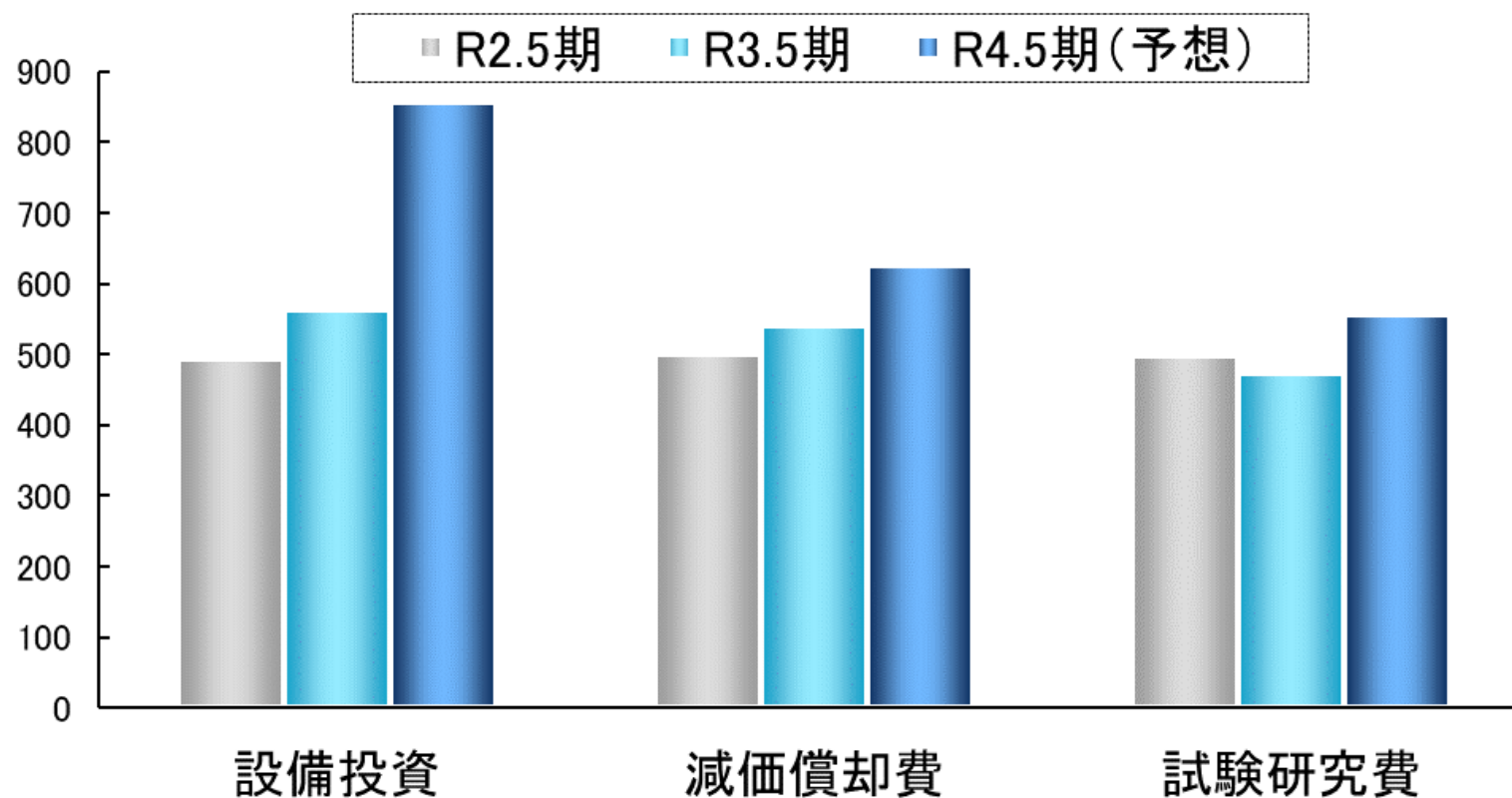


(単位:百万円)



(単位:百万円)



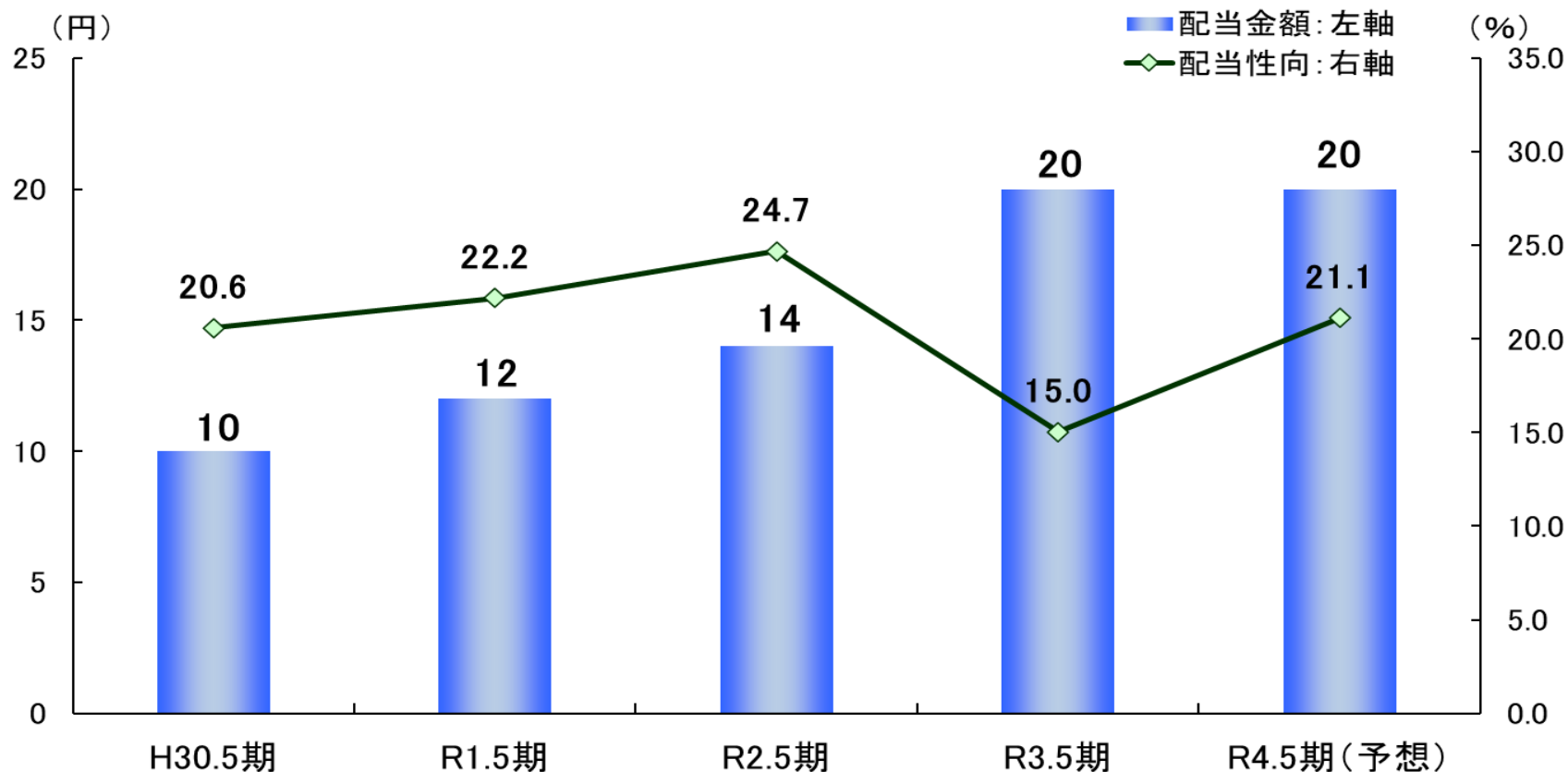


(単位:百万円)

	R2. 5期 実績	R3. 5期 実績	R4. 5期 予想
設備投資	493	563	857
減価償却費	501	541	627
試験研究費	499	473	557

- 配当性向30%を目安に、業績等を勘案し、継続的な配当を行う方針
- 内部留保については、経営基盤の充実ならびに将来の事業展開に活用

【 配当金推移 】



【 自己株式取得 】

- | | |
|----------------|------------------------|
| (1) 取得する株式の種類 | 当社普通株式 |
| (2) 取得する株式の総数 | 400,000株 (上限) |
| (3) 株式の取得価額の総額 | 320,000,000円 (上限) |
| (4) 取得する期間 | 令和3年7月27日から令和4年1月31日まで |

I	企業概要	3
II	令和3年5月期 決算概況	11
III	中期経営計画	16
IV	令和4年5月期 業績予想	26
V	トピックス	35

当社の事業領域

1. 生活基盤としての上下水道に関する事業
2. 国土保全のための治水に関する事業
3. バイオマス、産業排水処理事業

当社事業領域における外部環境

【社会課題】

- 施設の老朽化、更新需要の増大
- 労働人口減少に伴う人材不足
- 利用水量減少に伴う収入減少
- 自然災害の激甚化
- 深刻化を増す地球温暖化

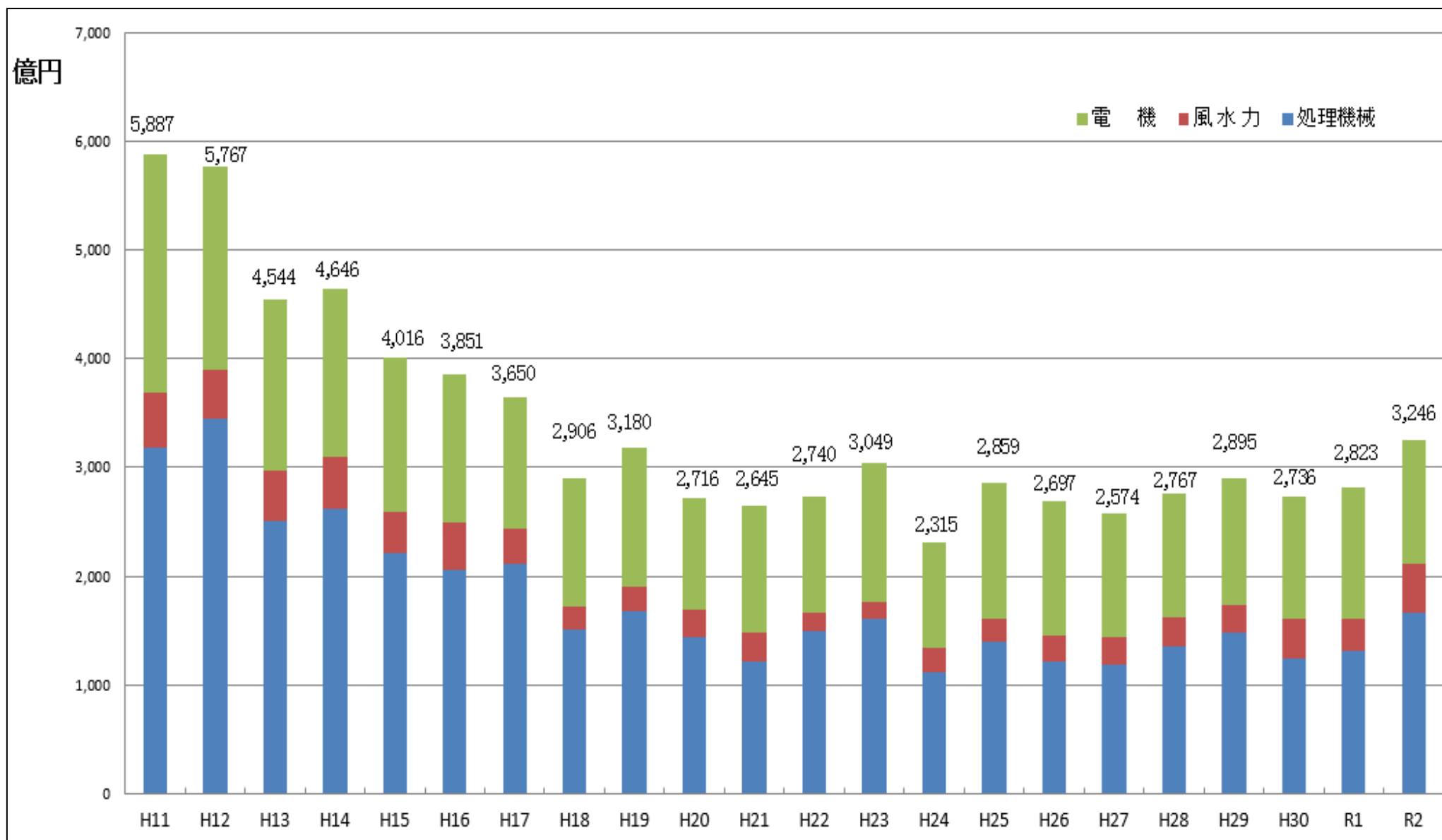
【社会動向】

- ➔ 広域化・官民連携の推進
- ➔ 防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策
- ➔ グリーン社会実現に向けた動き

中長期的な施策

- (1) 再エネ・省エネ技術の展開
- (2) 官民連携への取り組み
- (3) 海外展開
- (4) 更新提案
- (5) 経営基盤強化

下水道施設市場規模



※一般社団法人日本下水道施設業協会調べ



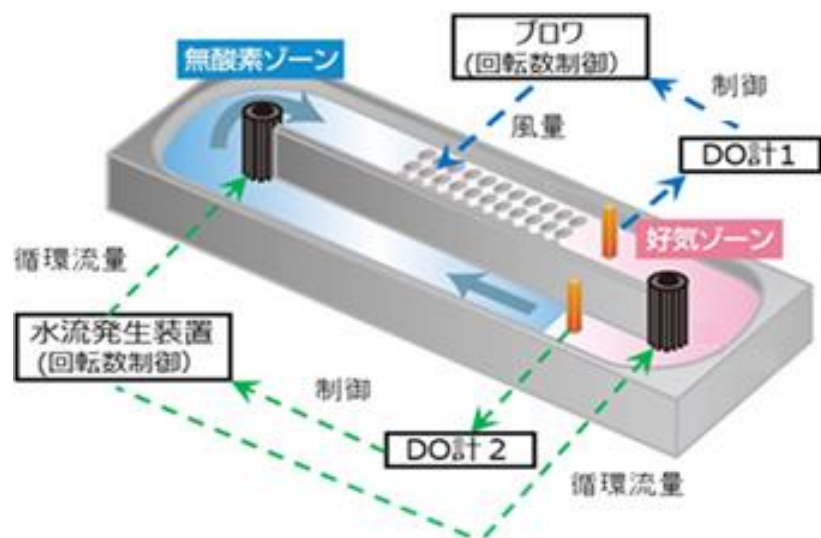
脱炭素社会に向け、日本政府も2050年までの実現を宣言している「カーボンニュートラル」の動きとともに再生可能エネルギーへの注目が高まっております。

当社の手掛けているバイオガスプラントは、畜産ふん尿や食品廃棄物等のバイオマス資源を電気・ガスに変換し有効利用することが出来ます。

バイオガスプラント竣工実績

NO.	場所・施設	原料種別	発電機規格容量	竣工時期
1	山梨県富士河口湖町 ／富士ヶ嶺バイオセンター	乳牛・豚ふん尿	65kw × 2台	2004年
2	静岡県伊豆市 ／天城放牧場バイオガスプラント	乳牛ふん尿／生ゴミ	30kw × 1台	2005年
3	北海道士幌町 ／士幌バイオガスプラント	乳牛ふん尿	25kw × 7台	2016年
4	沖縄県島尻郡八重瀬町 ／八重瀬町地域循環型バイオガスプラント	乳牛ふん尿	25kw × 1台	2017年
5	北海道清水町 ／清水町美蔓バイオガスプラント	乳牛ふん尿	400kw × 2台	2019年
6	北海道釧路市 ／釧路市有機質肥料活用センターバイオガスプラント	乳牛ふん尿	100kw × 2台	2020年
7	某所 ／バイオガスプラント	食品残渣	550kw × 1台	2020年

平成26年度
日本下水道事業団
「新技術I類」取得



OD法における 二点DO制御システム

省エネと処理能力の増強を実現

全国の下水処理場 (2,152カ所) のうち
「OD法を採用している下水処理場は全国で1,029カ所」
(「平成25年度版下水道統計より」)



平成27年度国土交通大臣賞 (循環のみち下水道賞)
グランプリ

公益社団法人日本水環境学会 平成27年度
技術賞受賞

科学技術振興機構2019年度 STI for SDGsアワード
優秀賞受賞



香南市夜須浄化センター
(高知県)



糸魚川市青海浄化センター
(新潟県)

全国6カ所導入済み

特長

- 1.処理能力の増強が可能
- 2.30%以上の消費電力削減
- 3.自動制御で安定処理

下記の課題解決をサポート

- 1.施設の統廃合による水量の増加
- 2.人口減少による水量の減少
- 3.コスト低減・省エネ

二点DO制御を用いた省エネ型OD装置 第47回 優秀環境装置表彰式 経済産業大臣賞 受賞

前澤工業株式会社、国立大学法人高知大学、日本下水道事業団が共同開発した「**二点DO制御を用いた省エネ型OD装置**」が、一般社団法人 日本産業機械工業会 第47回 優秀環境装置表彰式にて **経済産業大臣賞**を受賞いたしました。

全国から応募のあった環境装置を、独創性、性能、経済性、将来性等の観点から審査委員会において厳正な審査が行われ、この度表彰されました。



一般社団法人日本産業機械工業会では、1974（昭和49）年度より経済産業省（旧通商産業省）の後援を得て、環境保全技術の研究・開発、並びに優秀な環境装置（システム）の普及促進を図ることを目的として「優秀環境装置の表彰事業」を実施しています。

アトラスコプロZSブロワ

水処理の省エネ化

(公財) 日本下水道新技術機構 建設技術審査証明書取得



<効果試算>

年間電力費
約39百万円

30%削減

約27百万
(約12百万円削減)

試算条件：使用ブロワ：37KW（6台）
(計画処理人口：62,250人規模の下水処理場相当)、電力単価：20円/kwh

特長

省エネルギーを追求

小型軽量・省スペース 従来の約1/2

工期の短縮

高い部分負荷効率と広い風量制御範囲

維持管理性の向上

アトラスコプロZSブロワの導入例

- ・宮崎県延岡市 ひとつがおか 一ヶ岡下水処理場
- ・佐賀県 伊万里市 伊万里市浄化センター (2021年導入予定)
- ・福岡県 久留米市 中央浄化センター (2023年導入予定)



東京都小笠原村沖村浄水場(母島) (令和2年度稼働)

MIEX[®]による有機物除去システム

(公財)水道技術研究センター技術評価制度認定第1号

MIEX[®]樹脂とは

帯磁性イオン交換樹脂(Magnetic Ion Exchange)
水中の溶存有機物の除去が可能

導入効果

オゾン発生時の電力量低減
MIEX[®]の導入により30%程度削減

凝集剤使用量の低減
MIEX[®]の導入により30%程度削減

活性炭の寿命延長
約2倍に延長可能

トリハロメタン、ハロ酢酸、色度対策等
有機物低減に効果的

MIEX[®] 処理システムの導入例

- ・東京都小笠原村(父島)扇浦浄水場
- ・兵庫県佐用町奥^{おねみ}海浄水場
- ・山形県食肉公社

- ・東京都小笠原村(母島)沖村浄水場

現在、大規模浄水場への適用に向けた
プラント実験を実施中

国内の上下水道では、民間企業の技術、経営ノウハウおよび人材の活用により、公共サービスの向上と基盤の強化を図る官民連携が進められています。

現在遂行中の主な物件

事業名	方式	自治体	概要
<small>おおふなと</small> 大船渡市簡易水道施設 運転管理業務	O & M	大船渡市都市整備部 (令和2年4月～)	・膜ろ過施設5か所(当社施工)を含む浄水場7か所と配水池、ポンプ所など41ヶ所、計48ヶ所の水道施設の運転管理
利根川右岸流域下水道 維持管理包括委託	O & M	埼玉県下水道局 (平成30年～)	・小山川水循環センター(施設能力3万m ³ /日)の包括的業務委託
<small>おとがわ</small> 男川浄水場更新事業	PFI	岡崎市上下水道局 (平成29年～)	・岡崎市の約半分の地域に給水する男川浄水場(施設能力68,395m ³ /日)の設計・建設・維持管理
<small>かきのき</small> 柿木浄水場維持管理委託	O & M	埼玉県企業局 (平成27年～)	・埼玉県南部工業用水道事業、柿木浄水場(施設能力17万5千m ³ /日)の包括的業務委託
大久保浄水場排水処理 施設等整備・運営事業	PFI	埼玉県企業局 (平成19年～)	・埼玉県の基幹浄水場である大久保浄水場(施設能力130万m ³ /日)排水処理施設の設計・建設・維持管理および浄水発生土有効利用
<small>よこせ</small> 横瀬町水質管理センター 等維持管理業務委託	O & M	埼玉県秩父郡横瀬町 (平成19年～)	・好気性ろ床法(処理能力1,400m ³ /日)・汚泥脱水作業、MP場(22機場)を含む運転維持管理業務
<small>てらどまり</small> 寺泊浄化センター維持管 理業務委託	O & M	新潟県長岡市 (平成18年～)	・OD法(処理能力1,650m ³ /日)、汚泥脱水作業を含む運転維持管理業務
<small>とや</small> 鳥屋浄水場他運転管理 業務委託	O & M	神奈川県企業庁 (平成16年～)	・凝集沈澱・急速ろ過、膜ろ過施設の運転維持管理

● 高機能、高品質、省エネ、低環境負荷を強みとする製品、技術(価格競争の回避)

● 製品販売やEPCに止まらず、用水供給や排水処理サービスへの参入(官民連携)

バルブ・環境製品

- 流量制御弁等高機能製品
- ライフサイクルコストに優れるユニットピンラック

ODA

■ 直近の主な受注実績

・ODAベトナムハノイ市エンサ下水処理場沈砂池機械
(処理水量270,000m³/日・対象人口:90万人相当)

流入ゲート×2門、粗目自動除塵機4台、細目自動除塵機3台(ユニットピンラック) 他

水処理技術

- PTFE製MF膜(ハイブリッド膜処理システム、省エネ型高度処理MBR)
- 二点DO制御(省エネ型高度処理OD法、省エネ型高度処理への改造)

省エネ型高度浄水・排水処理で水質改善・環境負荷低減

高品質工業用水供給事業

高度排水処理・再生水利用

タイにおける工業用水供給事業の検討

■ 東部経済回廊(EEC)の開発

タイでは東部三県を新経済特区とするEEC政策により長期的な陸海空におけるインフラ整備事業の推進と連携して、地域の工業地帯では医療系やIT系などの次世代企業の誘致計画が進められている。

一方、EEC地域の工業団地でため池などから取水する原水は色度、濁度が高く、雨季と乾季の変動も大きい。これを効率よく安価に高度処理して年間を通じて安定供給できれば高品質の水を必要とする次世代産業のニーズを捉え、工業団地の高度化、ハイテク化に貢献する用水事業としての発展が見込まれる。



■ NEDO事業を活用して事業化を検討

・「エネルギー消費の効率化等に資する我が国技術の国際実証事業」(要件適合性等調査、R2.8~R3.9)に採択された。安定的に高品質工業用水を提供し、供給エリアでの水処理エネルギー削減効果を示し、高品質かつ省エネ性・低環境負荷の両立を目指す。

・EEC地域のアマタシティーチョンブリ工業団地(スマートシティ開発地域)における実証事業に向けた要件適合性等調査を通して、事業化を検討する。調査後に審査等を経て、実施設備による実証事業へと進む予定。



インナーチューブ接続中



バイパス接続中

ゲート不断水工法

今まで水を止めることができず更新が難しかったゲートを不断水で更新

■ 特長

【工法①】 インナーチューブ工法

インナーチューブを用いてバイパスを確保する事で、不断水・常時通水施工・作業場所のドライ化を実現する工法

【工法②】 SCプラグ工法

特殊プラグを用いてバイパス水路を構築する事で、不断水・常時通水施工・作業場所のドライ化を実現する工法

【工法③】 封水タンク工法

対象となるゲートの周りを封水タンクで囲み、作業領域を確保する事で最小限の水替えで更新を行う工法。



更新対応型ゲート

■ 特長

- ・ 鋳鉄製ゲートをそのまま更新
- ・ 鋳鉄の特徴である剛性を活かし、戸当り分割式とすることで不断水による更新も可能
- ・ 更新対応型を採用することで次回更新の際には土木構造物を研らず短期間で交換が可能

更新マディハイバルブ 更新仕切弁 更新バタフライ弁



更新マディハイバルブ



更新仕切弁



更新バタフライ弁

■ 特長

- ・ 工事工程の削減によるコスト圧縮
- ・ 粉体塗装、ゴムライニングによる優れた耐食性
- ・ 更新時、新設時に伸縮継手不要
- ・ 既設弁を容易に交換可能

当社とSDGsの関わり

当社はこれからも水関連企業、さらに環境関連企業として社会インフラの構築などを通じて、社会の持続的な発展に貢献してまいります。

経営理念 水とともに躍進し人間らしさをもとめ
社会に貢献できる魅力ある企業



「埼玉県SDGsパートナー登録」

当社として「埼玉県SDGsパートナー」の趣旨に賛同し、SDGs達成に向けた具体的な取り組みを共に推進すべく登録を致しました。

災害復旧の取組み



当社グループは被災した自治体の上下水道設備の、復旧対応・減災対応にも取り組み、持続可能なインフラを支えています。

令和元年東日本台風における災害復旧



一級河川千曲川左岸に位置する上今井浄化管理センターが千曲川の越水により浸水し、機械設備などが故障。

【被災状況】



【復旧前】

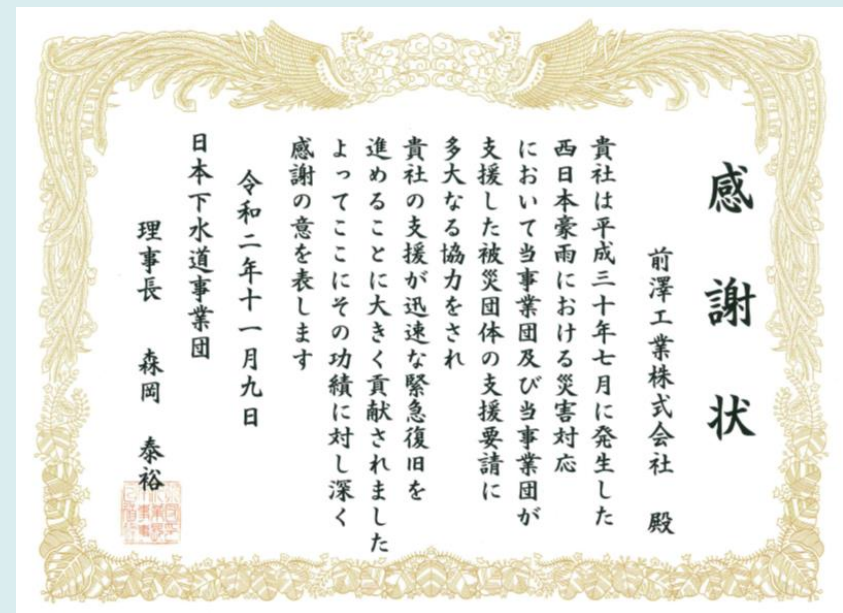


【復旧後】

復旧作業では、装置の更新だけでなく、約2.1m嵩上げし、機器が浸水しづらいよう減災対応を実施。

令和元年東日本台風は東日本一帯に大規模な災害をもたらし、長野県中野市上今井浄化管理センターも千曲川の越流により大きな被害を受けました。これを受け、前澤工業・前澤エンジニアリングサービスでは日本下水道事業団、中野市や関係者の方々と共に上今井浄化管理センターの災害復旧に取り組みました。

平成30年西日本豪雨における災害対応感謝状



平成30年7月に発生した西日本豪雨における災害対応が、迅速な緊急復旧を進めることに大きく貢献した功績が認められ日本下水道事業団より感謝状を頂きました。



2017年11月「えるぼし」企業(認定階最上位)に認定

「えるぼし」認定は、女性の活躍推進に関する取組みの実施状況等が優良な企業を厚生労働大臣が認定する制度です。認定における5つの評価項目は、「①採用 ②継続就業 ③労働時間等の働き方 ④管理職比率 ⑤多様なキャリアコース」から成り、これらの項目全ての基準を満たし、最上位3段階目の認定を取得いたしました。



多様な働き方の実現に取り組んでいます



2018年12月「多様な働き方実践企業」プラチナ認定取得

「多様な働き方実践企業」は、男女がともにいきいきと働ける環境づくりに取り組んでいる企業を埼玉県が認定するものです。2014年に取得したゴールド認定を更新し、法定を上回る制度の充実(時間単位有給休暇、看護・介護休暇を出勤とみなすこと、積立有給休暇制度)に加えて、製造業の平均を上回る女性管理職比率の達成および「えるぼし」認定の取得が評価され、プラチナ認定にステップアップいたしました。



2018年 3月「シニア活躍推進宣言企業」の認定取得

「シニア活躍推進宣言企業」とはシニアの活躍の場の拡大のための取り組みを実施している企業を埼玉県が認定する制度です。「①シニアが安心して働ける環境を整える ②シニアの技術・経験を生かす ③シニアの能力を伸ばす ④福利厚生を充実する」の4項目を満たし認定されました。また当社では、2018年6月に社員が60歳以降も安心して働けるよう定年年齢を65歳に引き上げました。



「埼玉発世界行き」冠奨学金

海外へ挑戦する若者を応援することを目的とした2021年度「埼玉発世界行き」冠奨学金制度に協賛しています。

2021年7月9日(金)に埼玉県と(公財)埼玉県国際交流協会主催の「埼玉発世界行き」冠奨学金感謝状贈呈式が埼玉県知事公館で行われました。



感謝状贈呈式

2020年度冠奨学金制度を利用した奨学生は、コロナの影響の為渡航が延期となっておりますが、引き続き将来に向けた人材育成支援活動を行って参ります。

災害時協定

埼玉県のほか全国の地方自治体、地方公営企業及び一般社団法人と災害時における調査・復旧工事や資材供給等の災害時協定を結んでいます。(締結数:47団体 2021.5.31現在)



Maezawa Industries, Inc.

注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

【本資料に関するお問い合わせ先】

前澤工業株式会社 経営企画室

Tel : 048-251-5511 Fax : 048-251-9375

E-mail : prir_info@maezawa.co.jp